

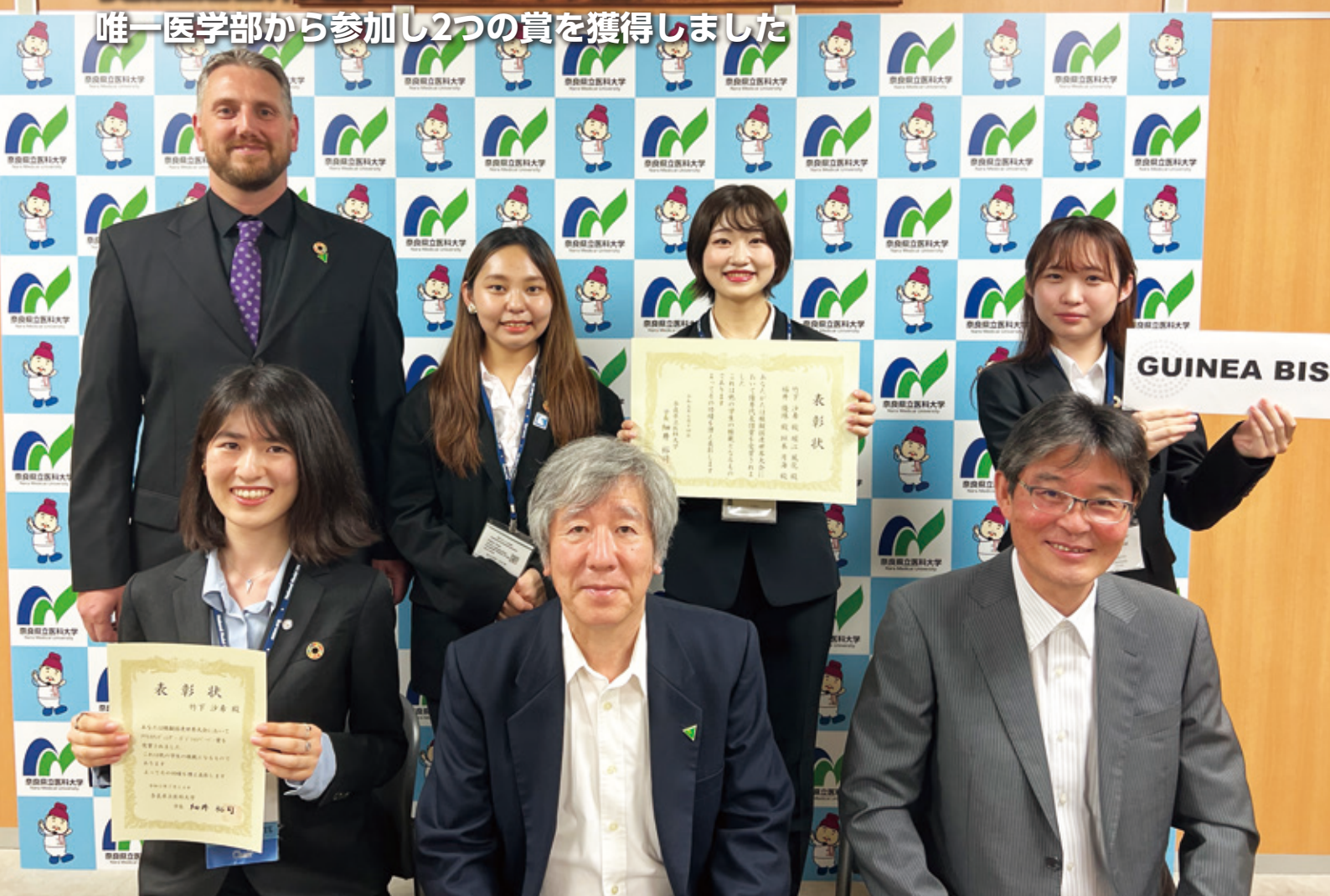
学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **85** 2023
夏号

Special Feature

理事長・学長からの
メッセージ vol.28とは 人を研究する学問 人を知る学問
模擬国連世界大会ニューヨーク大会に
唯一医学部から参加し2つの賞を獲得しました
細井 裕司



Contents

特集	理事長・学長からのメッセージ vol.28	3
	令和4年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算	4
	MBT 研究所だより (第29報)	5
	国際交流センターだより vol.12	6
	図書館だより	8
	働き方改革だより	9
Topics	次世代のがんプロフェッショナル養成プランについて	10
	看護部の紹介	11
Campus News	令和3年度及び4年度医学科卒業生から演台を二台寄贈いただきました	11
	ニューヨーク大会参加報告：奈良県立医科大学模擬国連チームが世界へ飛躍つ	12
	臨床英語ファースト・エイド研修：ニュージーランド救急隊員がスキルスラボにきた！	13
	MBT 研究所運営会議を開催しました	13
	令和5年春の叙勲を受賞されました	13
	第9回日本心筋症研究会で発表しました	14
	研究結果を論文に出版しました	14
	千里ライフサイエンスセミナーを開催しました	14
	白衣授与式を開催しました	14
	大学院看護学研究科のオープンキャンパス2023を開催しました	15
	山内基雄教授が第3回エコマミ公開講座で講演を行いました	15
	模擬国連チームの健闘が学内でも表彰されました	15
	院内外来ボランティア「ラポール」活動再開	15
	MBT 特命教員による医学部生への公開講義	16
	公的研究費の適正使用に係る研修会を開催しています	16
Winner Report	第87回日本循環器学会学術集会でYoungInvestigator Award 優秀賞を受賞しました	17
	MSD社のCRC Award 2022を受賞しました	17
	産学官連携特別賞を受賞されました	17
	「第32回日本泌尿器科学会研究助成金」を受賞しました	17
	第52回日本IVR学会総会最優秀ポスター賞受賞	18
	国際ソロプチミスト奈良—あすか女性研究者賞を受賞されました	18
	国際ソロプチミスト奈良—あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました	18
	日本ゲノム編集学会第8回大会で優秀ポスター賞を受賞しました	18
	第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 大会長賞を受賞しました	19
	日本肝臓学会賞(織田賞)を受賞しました	19
	奈良県立医科大学医学部医学科同窓会海外留学助成金 厳檀学術奨励賞受賞者決定	19
	第8回日本がんサポーターティブケア学会で最優秀演題賞を受賞しました	19
	日本精神神経学会 国際学会発表賞を受賞しました	20
	横断的共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました	20
	令和5年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定	21
	未来への飛躍基金だより	25
Information	大学院入試日程	26
	公開講座情報	27
寄附者ご芳名	「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	27
	メディア掲載情報	28
	編集後記	28

奈良医大の人材育成

理事長・学長 細井 裕司

奈良医大の人材育成についての考え方を述べたいと思います。

1. 優秀で多様な人材を得る。

入学試験において、将来奈良医大を飛躍させていただける人材を選抜します。推薦、前期、後期の3つの入試を行っている理由は、多様な人材の確保です。それぞれの入試区分は異なった性格を持っており、将来異なった多様な分野で活躍できる学生を入学させていることとなります。

2. 学生のレベルを在学中に一層上昇させる。

学生全体のレベルを上げることに重点を置きながら、将来世界で通用する突出した医師、看護師の育成を考えた教育を行っています。表に2016～2023年度のリサーチクラークシップの派遣状況を示します。新型コロナウイルス感染拡大のため、海外は2020～2022年度、国内は2020年度の派遣は中止しています。2023年度は予定者数です。派遣学生の中には、Cell誌など有力医学誌に論文が掲載されるなど大きな成果が上がっています。

3.アントレプレナーシップの醸成

アントレプレナーシップとは「新しい事業分野を起こそうとする精神」です。そのために必要な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さを意味しています。医科大学においてこの精神は重要だと思います。単に医学、看護学を修めるだけでなく、このような精神を学んでいただきたいと思い、ダイソー創業者、森精機社長、パナソニック前会長、クオール薬局創業者など異分野の方々にMBT特命教授を委嘱し、学生対象の講義を行っていただいています。また、教職員には起業を奨励し、公立単科の医科大学として最多の6社の大学発ベンチャーが設立されました。

4. 優秀な医師、看護師が奈良県に軸足を置きながら

世界で活躍する。

医師の場合はマッチング率によって、奈良県への定着の度合いを測ることができます。マッチングの長い歴史において、大都会の都道府県もなし得なかった県単位の定員充足率100%を奈良県は2019年度に達成しました。奈良県に多くの優秀な医師が残って活躍していただいている証だと思います。

5. 医療人育成機構

医師も看護師も一生涯学び続けなければなりません。そのために、医療人育成機構を発足させました。卒前の医師及び看護師教育育成部門、卒後の医師教育育成部門、卒後の看護師教育育成部門から成り立っています。奈良医大は卒業後も卒業生の教育に熱心に取り組む所存です。

6. 未来への飛躍基金

学生の海外派遣はじめ人材育成に大きく貢献していただいているのは、「未来への飛躍基金」です。教職員、卒業生、学生の保護者をはじめ奈良医大の発展に期待いただいている方々のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

リサーチクラークシップ 派遣状況 (2016～2023※)

海外派遣者数	
派遣先	派遣学生数
アルバータ大学 (カナダ)	7
モナシュ大学マレーシア校 (マレーシア)	5
国立台湾大学 (台湾)	5
シンシナティ小児病院医療センター (アメリカ)	4
テキサス大学 (アメリカ)	4
ハーバード大学 (アメリカ)	4
ミシガン大学 (アメリカ)	4
コロラド大学 (アメリカ)	3
オレゴン健康科学大学 (アメリカ)	2
コロンビア大学 (アメリカ)	2
シンガポール国立大学 (シンガポール)	2
ボローニャ大学 (イタリア)	2
リンカーン大学 (ニュージーランド)	2
その他	15
総計	61

国内派遣者数	
派遣先	派遣学生数
早稲田大学	23
国立循環器病研究センター	21
奈良先端科学技術大学院大学	15
理化学研究所	13
京都大学大学院	7
国立精神・神経医療研究センター	6
同志社女子大学	4
東京大学	3
国立感染症研究所	2
慶應義塾大学	2
奈良女子大学大学院	1
その他	91
総計	188

※新型コロナウイルス感染拡大のため、海外は2020～2022年度、国内は2020年度の派遣は中止。2023年度は予定者数。

令和4年度 公立大学法人奈良県立医科大学決算

令和4年度決算 収益/575億8,128万円(△3億7,395万円) 費用/565億9,295万円(+10億7,069万円)

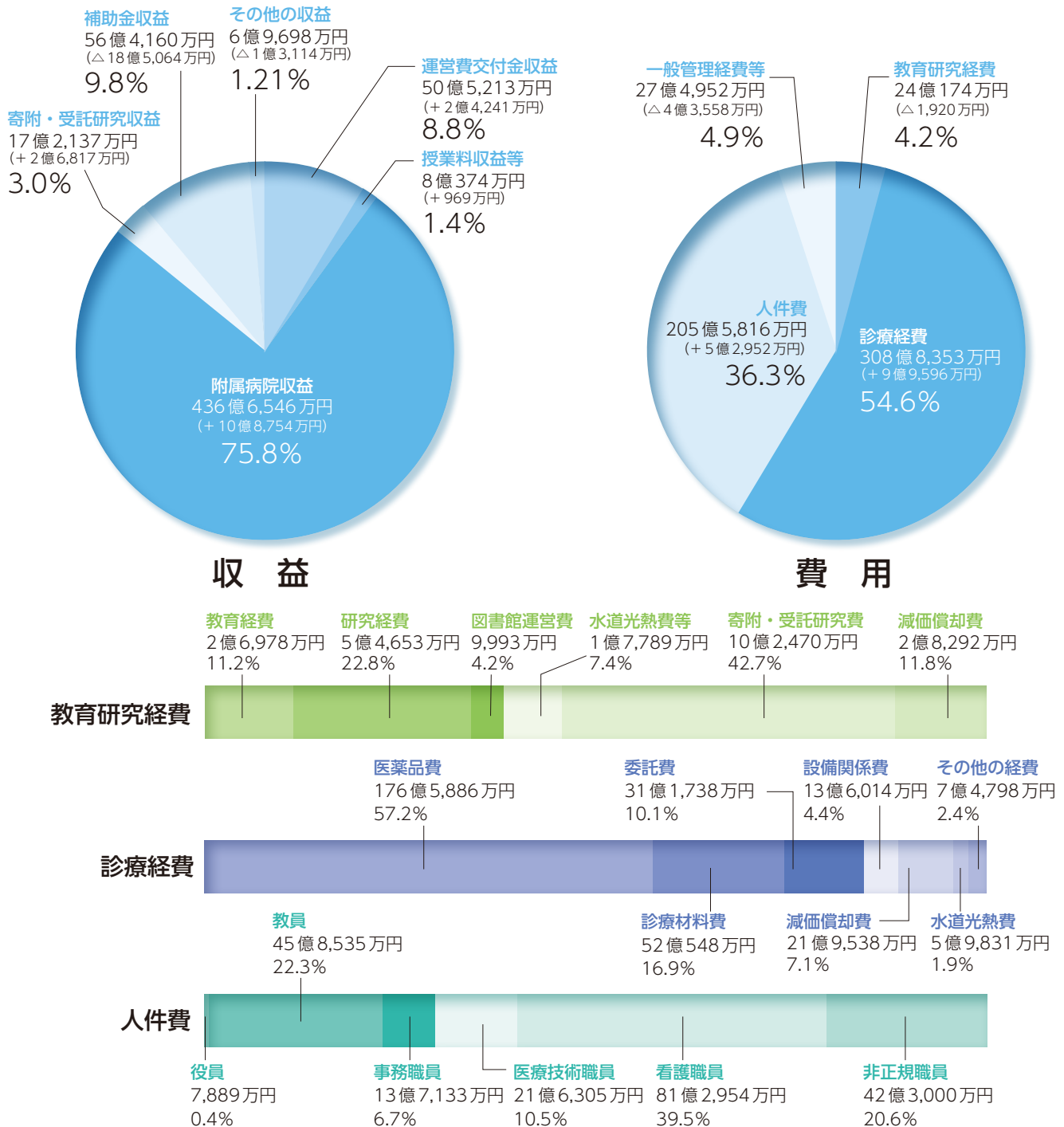
差引 9億8,832万円の黒字(R3 24億3,297万円の黒字)

※ () 内は前年との増減額

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症患者の受入に伴う患者抑制の影響もありましたが、病床運用の効率化等による入院単価の増、外来患者数の増加等により附属病院収益が増加しました。一方で、病床確保料等の新型コロナウイルス感染症に関連する補助金収益が減少したことなどにより、9.9億円の黒字となり、昨年度の24億円の黒字から大幅に減少しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行となりましたが、継続して対応が求められるため附属病院収益の回復は緩やかであることが想定され、経営状況が厳しくなることが予想されます。

皆さまには引き続き経費節減など経営改善に向けた取り組みへのご協力をよろしくお願いいたします。



令和4年度は、一般財団法人弘済会から、2,000万円の助成を受け、大学・病院施設の各所改修やペーパーレス会議端末の整備などを行いました。

1. MBT 特命教員特別講義

医師 / 医学者としてのキャリアアップのプロセスを理解するとともに、病気のメカニズム、医学研究の面白さや治療技術の革新状況をオムニバス形式の講義で学ぶ「医学・医療入門講義」が開講されました。この中で MBT 特命教員が公開講義を行っており、本年は 5 名の MBT 特命教員による公開講義が開催されています。

(1) 梅岡比俊 MBT 特命講師

4月24日、梅岡先生による特別講義が「医師の視点から考える起業家精神」の演題で行われました。梅岡先生は本学の卒業生で、現在計8院のクリニックを展開するとともに、100名の開業医を組織するM.A.F.を主宰するなど多岐の分野に活躍されています。本講義では「アルバイトをたくさんして欲しい、いろいろな方と接して欲しい、健康を失うとすべてを失う」といったことを強調されました。



梅岡比俊 MBT 特命講師

(2) 矢野博文 MBT 特命教授

5月15日、(株)ダイソー創業者である矢野先生による特別講義が「厳しい日本」の演題で行われました。矢野先生からは「実社会は優しくは迎えてはくれない。人生は艱難辛苦を何回乗り越えられるかである。しんどい時を乗り越える魔法の言葉、それは、「ありがとう、ありがとう」である。挨拶は利益の源泉であり、感謝する力を持って乗り切ってください。」などご自身の厳しくも豊富な人生体験を振り返り、そして今後の日本の行く末を見つめて、若い医学生の道標となるお話を講義されました。



矢野博文 MBT 特命教授

(3) 森雅彦 MBT 特命教授

5月22日、DMG 森精機(株)代表取締役社長である森先生による特別講義が「工作機械の世界と DMG 森精機の経営ビジョン」の演題で行われました。森先生は、DMG 森精機(株)が世界一の工作機械メーカーとなり得た経営理念を紹介するとともに「①よく遊ぶ(心身の健康)、②よく学ぶ(技術の変化に適応)、③よく働く(成果重視、生産性向上)」の順に重視すべきであると強調されました。



森雅彦 MBT 特命教授

(4) 中村勝 MBT 特命教授

6月5日、全国に800を超える調剤薬局店舗を構えるクオールホールディングス(株)の中村勝会長が MBT 特命教授に就任し、細井理事長より称号記が授与されました。この後、中村先生による特別講義が「50歳からの0(ゼロ)スタート経営」の演題で行われました。中村先生は、それまでの会社勤めを辞めて50歳を機にクオール(株)を設立し、わずか30年余りで大手調剤薬局に成長させた苦労話と人生哲学を交えた話をされました。



称号記を持つ中村勝会長と細井理事長



中村勝 MBT 特命教授

(5) 長榮周作 MBT 特命教授

7月10日、前パナソニック(株)会長の長榮周作先生による特別講義を行うこととしております。

2. 家庭の電力データを活用した中高年住民の見守りに関する実証実験の成果公表

5月16日、MBTリンク株式会社(代表取締役社長:梅田智広研究教授)と東京電力グループの株式会社エナジーゲートウェイは、北海道沼田町にて約3年間実施した見守りシステムの実証実験に関する結果を、東京の大手町で、約100人の報道や業界関係者に向けて発表しました。実証実験では家庭の電力データを活用し、その使用データの特徴から、医学的知見を活かしながらデータ相互の相関関係や意味を解析しました。さらにライフスタイルをこのデータを基に客観的評価を行いスコア化し、スコア点数が大きいほど規則正しい健康的なライフスタイルであるとして評価しました。



発表する梅田智広研究教授

国際交流センターだより vol.12

チェンマイ大学からの研究者紹介（4月10日～6月5日）

チェンマイ大学（タイ）との学術協定に基づき、Dr. Supakit Khacha-anandaが本学の法医学教室にて研究を行いました。Supakit先生は当初、3年前に来日する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の規制で入国が叶わず、今年度の来日となりました。受入れに際しまして、粕田先生、勇井先生、工藤先生をはじめ、法医学教室のみなさまには大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

Dr. Supakit Khacha-ananda (チェンマイ大学)

I would like to express my deep gratitude to Prof. Kasuda for accepting me as a research trainee at the Department of Legal Medicine, Nara Medical University. My time in Japan has been incredibly fulfilling, providing me with invaluable experiences and opportunities for personal and academic growth. I have acquired a wide range of knowledge and research techniques, including analysis of vascular tension, induction of sepsis by CLP, analysis of diatoms in drowning cases, and the observation of forensic medicine processes. These experiences have expanded my academic horizons and enriched my understanding of these fields. I am enthusiastic about the opportunity to collaborate with the department staff in the future, as it will enhance the establishment of research connections. In addition to academic pursuits, I have also acquired Japanese vocabulary pertaining to greetings, expressions of gratitude, and everyday activities. I have been fortunate to visit numerous tourist attractions in the Kansai area, accompanied by the department staff. This firsthand exposure has provided me with profound insights into the rich cultural and historical landmarks of the region. I sincerely appreciate the warm and pleasant demeanor displayed by all the staff members. Their kindness and hospitality have significantly contributed to my overall positive experience and have made me truly grateful.



法医学 教授 粕田 承吾

法医学教室では、これまでタイのチェンマイ大学からの clinical training を受け入れてきました。今回は、Supakit 先生がこのプログラムに参加され、研究に関しては、各種病態モデルラットの作製法と血管機能解析について、手技を中心に習得してもらいました。さらに両大学における法医学解剖や各種検査法、教育システムについての意見交換を行い、当教室スタッフにとっても貴重な経験となりました。



令和5年度（第1回）若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定（5月25日）

令和5年度 若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の4名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属(科目)	職名	氏名
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	田中 瑛久
口腔外科学	医員	財前 美希
小児科学	大学院生	水町 邦義
呼吸器内科学	大学院生	濱田 恵理子

ドイツからの臨床実習生の紹介 (5月22日～7月14日)

Hannes Trost (ハノーファー医科大学)

消化器・総合外科学

Hey, my name is Hannes Trost and I am a medical student from Hanover (Germany) in my final year of university. From the end of May, I was doing a clinical rotation at Nara Medical University Hospital in the Department of Surgery. I always wanted to visit Japan and when I heard about the outstanding experience some fellow students had at Nara Medical University, I decided to go. In Japan, I lived with a host family near the university so I was able to take the bicycle every morning. At the weekends, I usually planed some trips. One of my favorite trips was to Ise National Park to see the Ama divers. I enjoyed every moment of my stay. Thank you for that to all the persons I met.



プリンスオブソンクラ大学一行が本学を訪問されました (4月19日)

プリンスオブソンクラ大学医学部(タイ)からRoengsak Leetanaporn医学部長をはじめ、総勢13名のスタッフが来学されました。今回の訪問は、先方からの依頼により実現したものです。

細井学長をはじめ、吉川病院長、吉栖教授(薬理学)、木村教授(産婦人科学)、酒井教授(化学)、栗本教授(発生・再生医学)、伊藤教授(免疫学)とのミーティングが行われ、その後は、バースセンターとIVRセンターを見学されました。

ミーティングでは、先方から学術交流協定についての提案があり、本学も締結に向け、前向きに検討していくことになりました。



ミーティングの様子



IVRセンター見学



学長室にて記念撮影

インパクトファクターの調べ方

インパクトファクターとは

Clarivate Analytics社が提供している学術雑誌の評価指標のことで、Web of Scienceという学術情報データベースに収録された雑誌の文献の引用データをもとに編集されています。よく「雑誌の影響度」などと表されます。例えば、2022年のJAMAのインパクトファクターは(2020～2021年にJAMAに掲載された論文が2022年に引用された回数)÷(2020～2021年のJAMA掲載論文数)となります。毎年6月末～7月頃に更新されます。論文の指標と混同してしまいがちですが、インパクトファクターは雑誌単位の指標であり、個々の論文の指標ではありません。

アクセス方法

Journal Citation Reports (以下、JCR) というサイトからご覧いただけます。ブラウザはChrome、Firefox、Microsoft Edgeをご利用ください。

【図書館ホーム>オンラインリソース>

研究・学習支援ツール> Journal Citation Reports】

トップ画面中央部の検索ボックスに雑誌名を入力します。入力途中で前方一致する雑誌名の候補が出てきますので、見たい雑誌が出てきたらそちらをクリックします (ISSN (雑誌のID番号) でも検索可です。その際はハイフンをお忘れなく)。



なお、略誌名では出てこない場合があります。例えば、「NEJM」と入力しても「No results found」となってしまいます。JCRでは独自の略誌名を採用しており、中にはPubMedの略誌名と異なるものもあります。「the」や「of」が抜けているだけでも出てこないため、検索しても出てこないような場合は正式名を確認してください。

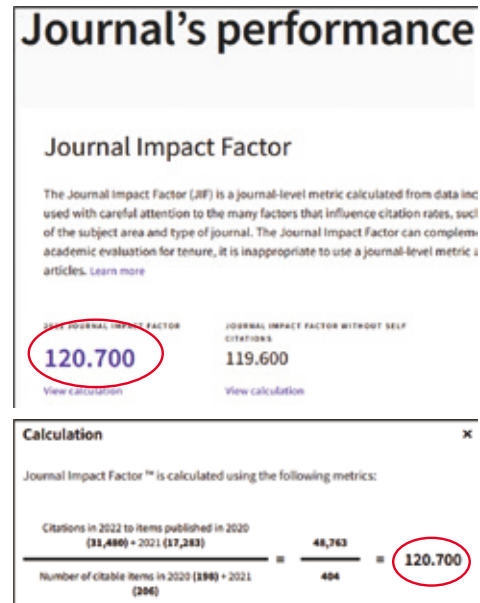
また、算出には丸3年間のデータが必要となるため、創刊から3年以内の新しい雑誌にはインパクトファクターはありません。誌名やISSNが変更された場合は新しい雑誌として再評価されます。さらに、対象となる雑誌はWeb of Scienceの収録誌に限られるため、出版されている全ての雑誌にインパクトファクターがあるわけではありません。

そのほか、極端に自誌相互引用が多いなどの理由でその年のインパクトファクターを取り消されるものもあります。不正にインパクトファクターを押し上げてしまうからです。JCRのHelpページで取り消された雑誌のリストをご確認いただけます (Help > Title Suppressions)。

検索結果 (Journal Profile) の見方

【Journal's performance > Journal Impact Factor】

最新のインパクトファクターが載っています。JAMAの2022インパクトファクターは120.700です。ダウンロードは「Export」をクリックしてください。Clarivateのアカウント (EndNoteなどのもの) でログインが必要です。「View calculation」からインパクトファクターを算出した計算式を確認できます。



そのほか、以下の項目などを参照できます。

- Journal Citation Indicator (JCI) : JCI (分野間の雑誌を比較することができるよう正規化された指標) の傾向
- Total Citations : 全引用回数
- Citation Distribution : 引用分布
- Open access (OA) : オープンアクセス論文の引用数

ポイント

- ★インパクトファクターは前2年分のデータのみで算出するため、引用に時間のかかる分野の研究には参考になりにくい部分があり、異分野間の比較には適していません。
- ★Web of Science収録誌に限定されていることや、雑誌単位の指標であることなどから、インパクトファクターのみでは個々の研究成果の評価はできません。
- ★2021年以降のインパクトファクターは新型コロナウイルス感染症論文の有無によって数値に極端な差異が出ているものもあり、参照には注意が必要です (JAMA IF2020 → 2021 : 56.274 → 157.375)。
- ★最新版では、すべての「Web of Science Core Collection」収録ジャーナルにインパクトファクターが付与されるようになりました。
- ★最新版では、インパクトファクターが小数点以下3桁から1桁のみの表記に変わりました。

働き方改革だより

◎令和6年度～ 長時間労働医師に対する面接指導が義務化されます

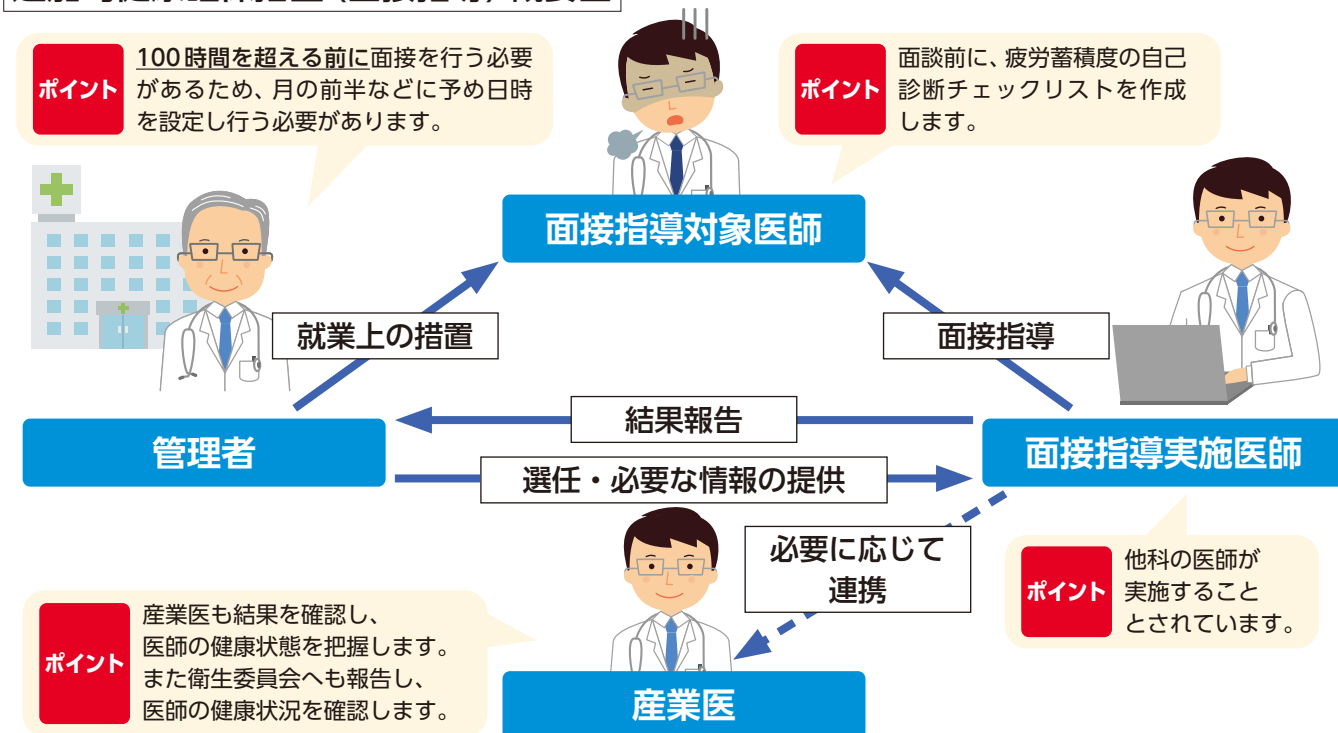
目的

長時間労働となる医師一人一人の健康状態を確認し、必要に応じて、管理者（事業者）が就業上の措置を講ずること

対象

月に100時間以上の時間外・休日労働（外勤含む）が見込まれる医師

追加的健康確保措置（面接指導）概要図



面接指導の流れ

管理者

①長時間労働医師の把握

▶ 時間外・休日労働時間の確認（出退勤システムで把握）

管理者

②面接指導日程を決定

▶ 面接指導実施医師に面接実施を依頼
▶ 管理者から実施医師に面接に必要な情報を提供

実施医師

③面接指導の実施
報告書作成

▶ 対象医師の勤務・睡眠負債・疲労蓄積度等を確認
▶ 報告書及び意見書を作成し管理者に報告

管理者

④結果の把握
長時間労働対策の実施

▶ 産業医が面接の結果を確認
▶ 衛生委員会への報告、対策の検討及び就業上の措置

夜勤化した所属では、対象となる医師が多数となることが想定されます。長時間労働を是正するための取組を今から考え、試行していきましょう。



次世代のがんプロフェッショナル養成プランについて

医療情報部 部長 玉本 哲郎

がん対策推進基本計画は、がん対策基本法に基づき策定され、がん対策の総合的かつ計画的な推進を図るため、がん対策の基本的方向について定めるとともに、都道府県がん対策推進計画の基本となり、現在は第4期に入っています。全体目標は、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」で、分野別としては、「がん予防」、「がん医療」、「がんとの共生」の3分野と「これらを支える基盤」の4分野の目標と具体的な施策が示され、さらにがん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項が示されています¹⁾。

がんプロフェッショナル養成プランは、「これらを支える基盤」の中の「人材育成の強化」に対応する目的で、優れた教育プログラムを開発し、大学間で連携し、開発・提供を担う拠点を支援する目的で行われてきました。第4期の養成プラン²⁾では、大学院レベルにおける教育プログラムを開発・実践する拠点形成を支援することで、「がん医療の新たなニーズや急速ながん医療の高度化に対応できる医療人が全国に」をゴールにしています(図1)。

具体的には、以下の3つの人材養成のテーマを扱っています³⁾。テーマ①のがん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材の養成では、「緩和的放射線治療や神経ブロック、多職種連携による集学的な痛みの治療」、「ケアなどがん患者のQOL向上及び終末期医療を担う人材」、「がん医療の現場を担う専門人材不在解消のため、地域に定着する放射線治療医・病理診断医や核医学治療を担う人材」、「腫瘍循環器学や腫瘍腎臓病学、老年腫瘍学等のがん関連学際領域に対応できる人材」について、テーマ②のがん予防の推進を行う人材の養成では、「マルチオミクスと臨床情報による医療ビッグデータに基づく効率的かつ個別化されたがん予防医療を推進できる人材や解析専門家」、「未発症者に対するサーベイランスや先制医療等、遺伝の専門医・専門看護師や遺伝カウンセラー等」、「がん経験者の身体的・精神的・社会的ケアや再発予防等にあたる人材」について、テーマ③の新たな治療法を開発できる人材の養成では、「個別化医療を推進するため、分子標的薬やコンパニオン診断薬、遺伝子治療薬等の創薬研究や新たな治療法の開発を担う人材」、「CAR-T療法や免疫チェックポイント阻害薬等の免疫療法を担う人材」についてです。

がんプロフェッショナル養成プランは、第3期が終了した令和3年で予算が凍結され、令和4年度は、クラウドファンディングで活動を継続していました。しかし、がんプロフェッショナル養成プランの活動のニーズが高く、第4期の事業として再開となりました。第4期の実施期間は令和5年～10年の6年間になっています。件数・単価は11拠点×約7750万円で、交付先は医学系研究科(博士課程)を設置する国公私立大学に対してでした。全国の12拠点の応募があり、本学は、第1期から第3期までと同様に大阪大学と連携し、京都府立医科大学、和歌山県立医科大学、兵庫県立大学、森ノ宮医療大学とともに6大学で「地域に生き未来に繋ぐ高度がん医療人の養成」のテーマで応募し、本年7月19日に無事採択されています。

これまでのがんプロフェッショナル養成プランの概要(図2)と取り組み(図3)を示します。第1期と第2期はがん医療の標準化が中心課題でしたが、第3期と第4期はがん診療の個別化が中心課題になっています。本学のこれまでの第3期までの取組は、放射線治療専門医、医学物理士、放射線技師の育成が中心でした。私は令和4年から本学のプロジェクトリーダーを務めています。第4期ではこれまでの活動を継承しつつ、さらに、がんゲノム医療の個別化医療ができる腫瘍内科医の育成だけでなく、地域に根差した病

理診断医や核医学治療の実施ができる放射線治療専門医の育成を目指し、関連する講座とも連携して行いたいと考えています。

参考文献

- 1) 第4期がん対策推進基本計画(令和5年3月28日閣議決定)概要
https://www.mhlw.go.jp/content/10901000/001077912.pdf
- 2) 「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」の概要
https://www.mext.go.jp/content/20230310-mxt_igaku-000028079_1.pdf
- 3) 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン(説明会資料)
https://www.mext.go.jp/content/20230322-mxt_igaku-000028078_2.pdf

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

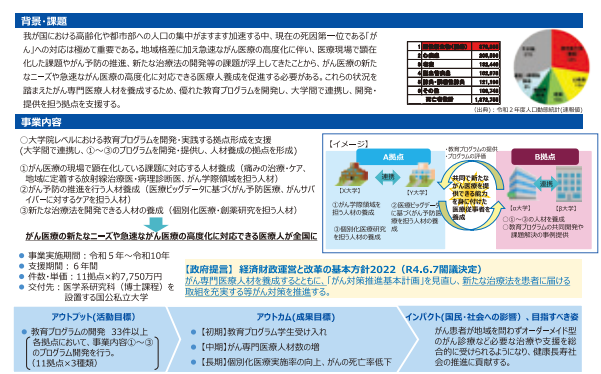


図1

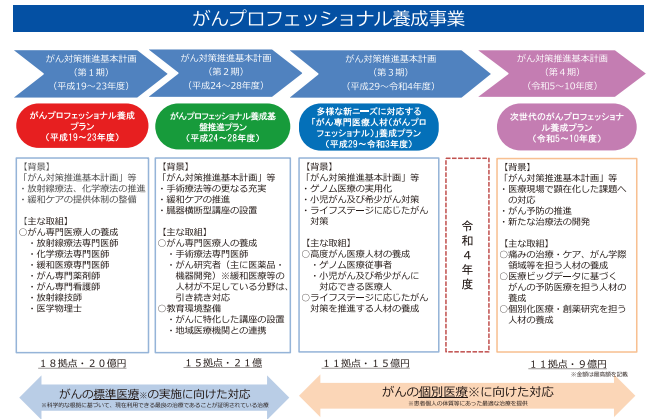


図2

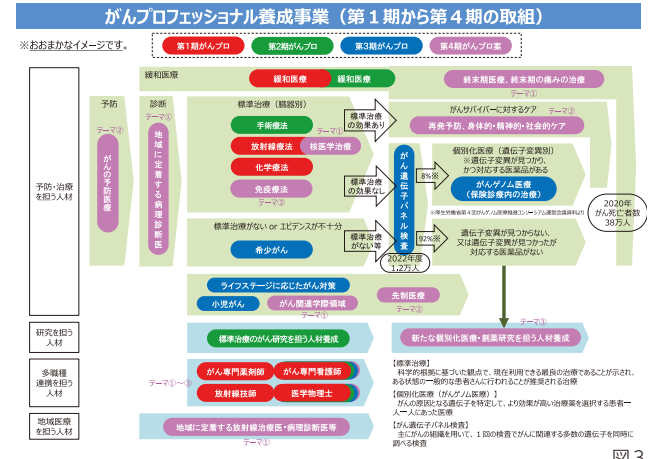


図3

看護部の紹介

就任のご挨拶

附属病院副院長 看護部長 看護実践・キャリア支援センター長 石飛 悦子

令和5年4月1日付で橋口前部長の後任として看護部長に就任いたしました。

「人間を愛する心とかけがえのない命を大切にします」という看護部理念のもとで、先輩方の築かれた奈良医大の看護を継承しつつ、状況の変化に対応し、そのなかで最善の看護を創造的に考え、新たなことにも挑戦していける看護部でありたいと考えております。

最善の看護を実践するためには、人材育成が要になります。専門職として自己研鑽に励み、互いに学びあい高めあえる組織風土の醸成に努めてまいります。

看護を受ける人にとっても看護を提供する人にとっても優しい組織づくりに取り組んでいきます。

今後とも皆様のご支援宜しくお願い致します。



令和5年度 奈良県看護功労者知事表彰 受賞

中央放射線部 師長 山口 峰子
看護副部長室 副部長 平島 規子 今別府 真奈巳

この度、5月11日、「令和5年度奈良県看護功労者知事表彰」を受賞致しました。今年度は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日を記念した看護の日（5月12日）と看護週間（5月7～13日）に合わせた行事として、奈良市登大路町の県庁前で日本看護協会が運行するラッピングバスの奈良県内出発式が行われました。このバスは、看護の仕事の重要性や魅力をアピールし、若い看護人材の確保につなげる為に県内を巡回します。その後、「令和5年度奈良県看護功労者知事表彰式」が東大寺総合文化センター 金鐘ホールで開催されました。東大寺という厳かな会場で、来賓の方々から祝辞をいただき、特別講演では東大寺総合文化センター総長 狭川普文氏（東大寺長老）から「奈良時代における医療福祉体制」についてのご講演をいただきました。これまでの自身の看護の歩みが想起されました。家族をはじめ、多くの皆様に支えていただき感謝申し上げます。

これを機会にまた身を引き締めて看護部の理念「人間を愛する心とかけがえのない命を大切にします」のもと、精進してまいります。

今後におきましても相変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。



キャンパスニュース

Campus News

4.1 令和3年度及び4年度医学科卒業生から演台を二台寄贈いただきました

この度、令和3年度及び4年度医学科卒業生から、演台を二台寄贈いただき、教養教育棟の第1、第2講義室で使用しています。

卒業生のみなさま、今後大切に使用させていただきます。本当にありがとうございました。

酒井教養教育部長から

「従来の演台は、ノートパソコンを載せるだけの幅しかなく、不安定で使い勝手の悪いものでした。新しい演台は幅が十分にあり、またパソコンの接続が容易で、内側に荷物を置くこともできます。このような心温まる寄贈をいただき、卒業生の皆様に厚く御礼申し上げます。大切に使用させていただきたいと思います。今後、教員のみならず、学生、招聘演者など多くの人が、この演台を使って熱弁を振るうことでしょう。」



4.14

ニューヨーク大会参加報告： 奈良県立医科大学模擬国連チームが世界へ^{とび}飛躍つ

「Distinguished Delegation Award, Nara Medical University!」

模擬国連 (NMUN: National Model United Nations) 世界大会ニューヨーク大会の最終日、熱気に満ちた国連本部ビルの総会議場で執り行われた閉会式で、奈良県立医科大学の名前が読み上げられました。昨年9月にウクライナのゼレンスキー大統領がビデオ演説を行ったあの場所です。割れんばかりの拍手が鳴り響く中、竹下沙希 (医学科6年)、堀江風花 (同4年)、福井優珠 (同3年)、垣本月海 (同2年) の4人は立ち上がりました。本学チームが「Distinguished Delegation Award (優秀代表団賞)」を獲得したのです。これは、パフォーマンスに優れた上位10%のチームにのみ与えられます。本学の名前が呼ばれた時には、なかなか実感が湧かなかったメンバー達ですが、世界中から集まった他大学の学生やスタッフから「Congratulations!」と口々に祝福を受け、段々熱いものがこみ上げてきたとのことでした。

個人では、竹下沙希が、優秀意見書賞 (Outstanding Position Paper Award) を神戸大会 (NMUN・Japan2022) に続いて連続受賞しました。更に、これまでの実績が高く評価された竹下は、参加者の中から審査を経て選ばれる議長 (Chair) の1人に任命され、経済社会理事会 (ECOSOC) の議長を務め上げました。

105カ国以上からおよそ3,900人が集う国際的な大舞台で、チーム・個人共に秀でた功績を残し、本学チームは2023年11月に開催される模擬国連世界大会ドイツ大会 (NMUN・Germany) への出場権を獲得しました。5日間にわたるチームの健闘を見守り続けたボルスタッド教授は「Looking at these four future doctors. I was so proud not just of the awards they received, but of all the hard work that they have done over the past months and years to get there!」と述べています。

ここに至るまで、臨床英語は学生達と共に歩んで参りました。ボルスタッド教授と学生との定期的なミーティング、マシソン准教授・プロジェクト講師による意見書の添削・ライティング指導、非常勤講師陣によるスピーキング強化対策とディベート教育など様々な支援を提供しました。加えてボルスタッド教授は、年間を通じ常にメンバー達と綿密にコミュニケーションを取り人材育成に尽くしてきました。こうした総力をあげたサポートがようやく実を結び喜ばしい限りです。

さらに今回の遠征では国連日本政府代表部においてブリーフィングを受け、日本の国連外交について学ぶ機会にも恵まれました。また、ボルスタッド教授の元教え子であった八里直生氏との会談では、法学部出身でJICA海外協力隊経験後、国連開発計画 (UNDP) に採用されたご経歴から、多様なキャリア選択の可能性を知ることができました。この出会いは学生達の一生の宝となるでしょう。

2023年7月に神戸で行われる日本大学英語模擬国連 (JUEMUN) には、本学から1年生5名を含む10名が、新リーダー堀江に率いられ参加します。昨年は司会者 (Facilitator) だった竹下は、今回は議長 (Chair) を務めます。また、2023年11月のドイツ模擬国連世界大会には5名の参加が決定しています。2019年に3名で始まった模擬国連ですが、今や、本学学生が世界に飛翔する滑走路となりました。国際的に活躍したいという目標をもつ本学学生に、学びの機会を継続して提供することこそが本学の役割であるという信念の元、臨床英語では今後も模擬国連教育に尽力していく所存です。引き続き、皆様の温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ブリーフィングの詳細や他の写真は二次元バーコードからどうぞ。



NMUN・NY2023 Facebook



日本国連外交ブリーフィング



More Photos of NMUN・NY

4.22
4.23 **臨床英語 ファースト・エイド 研修：
ニュージーランド救急隊員がスキルスラボに来了！**



ジョセフ講師とボルスタッド教授

臨床英語のボルスタッド教授により、Weekend First Aid Training がスキルスラボで開講されました。Covid のため 2019 年以来 3 年間で中断されていましたが、ようやく再開することができ嬉しい限りです。

First Aid Training は、医学科生と看護学科生が医療マインドについて初めて学ぶコースです。非常に盛り沢山の内容で、AED の使い方、CPR の実施、包帯の巻き方、止血帯の使用法、火傷・虫刺されの処置、熱中症や低体温症への対処法など多岐にわたる実践的なトレーニングを体験できます。加えて、英語の指示に従って体を動かし患者に英語で話しかける練習を重ねるので、救急医療現場での英語コミュニケーションのスキルと自信を育むこともできます。

今回の講師はニュージーランドから招いた救急隊員の Josef と Jermy で、スキルスラボの設備の充実ぶりに感激していました。二人は国際的に認知されている救急医療資格の EMT や ICP を持っている優秀なトレーナーです。研修中、ボルスタッド教授と二人のニュージーランド講師は、朝から夕方までずっと英語で指導を行いました。参加した 20 名の学生は、最初は戸惑っていましたが、ボルスタッド教授の笑顔と Josef と Jermy のボディランゲージに励まされ、次第に積極的に講習に取り組んでいきました。

2 日間の研修は、地震の瓦礫に埋もれた被災者を救出し、救命処置を行う訓練で完了しました。学生達は疲労を隠せませんでしたが、お互いの健闘を拍手で讃え合いながら笑顔に達成感を滲ませていました。参加者の何人かは、英語をもっと勉強したいと臨床英語ゼミ室で昼休みに行われている Lunch Time Chat の常連になっています。

臨床英語では、今年の冬に New Zealand First Responder Training の再開を予定しており、10 名の生徒をニュージーランドに派遣し救急医療の訓練を行う準備を進めています。今回のトレーニングは、ニュージーランド研修に参加する為に必修です。生徒からの高い関心と期待に応えて、国内と海外の研修を連携させたこのプログラムを継続的に発展させていく所存です。どうか引き続きご理解とご助力の程よろしくお願い申し上げます。

4.12
5.22
6.28 **MBT 研究所運営会議を
開催しました**

MBT 研究所では、各活動についての進捗報告、企画調整の場として月に一度 MBT 研究所運営会議を行っています。

運営会議では、MBT 難病克服キャンペーンの取り組みとして、2024 年 1 月 13 日 (土) よみうり大手町ホール (東京都) にて開催予定の「第 3 回 MBT 映画祭」の内容について議論しました。前回の反省点をもとに、より多くの方々に映像作品を楽しみながら難病についての理解を深めていただけるよう努めてまいります。

また、MBT 連携企業数の報告や連携企業間での情報交換ツールの検討、MBT の広報についても検討を重ねました。

今後も本学のこれまでの研究・活動成果を社会に還元していただけるよう MBT 活動の幅を広げていきます。

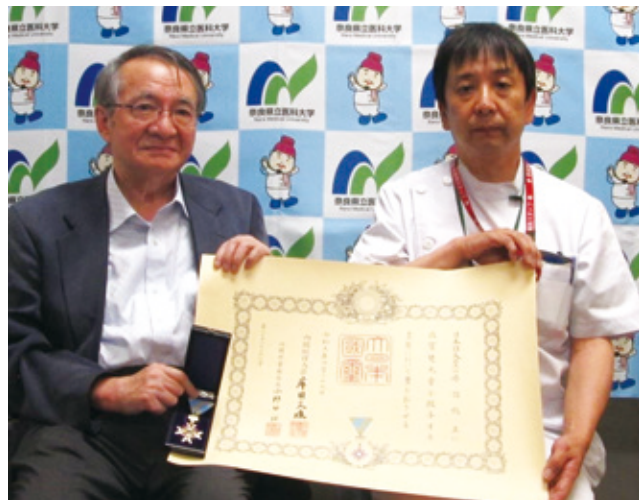


4.29 **令和 5 年春の叙勲を
受賞されました**

叙勲は、国家または公共のため功労のあった方を対象に授与されています。

令和 5 年春の受章者の発令があり、元中央臨床検査部技師長 (H7.4.1~H20.3.31) の丹羽欣正氏が瑞宝双光章を受章されました。

5 月 12 日に東京の国立劇場において伝達式が行われました。瑞宝双光章の受章、心からお祝い申し上げます。



丹羽氏と倉田中央臨床検査部技師長

5.13

第9回日本心筋症研究会で 発表しました

医学科5年 玉置 智隆

大阪で開催された第9回日本心筋症研究会における一般口演にて、「FFPE 心筋生検検体に対する Smart-3SEQ 法の適用」という内容で発表しました。心筋生検検体は FFPE 処理することで長期保管が可能となりますが、その過程での RNA の劣化と組織量が微量であることから、従来の方法ではトランスクリプトーム解析が困難でした。この微量 FFPE 心筋生検検体を Smart-3SEQ 法という手法で解析が可能であるかを検証しました。このことは循環器疾患のオミックス解析の発展に重要な知見と考えられます。ご指導いただきました循環器内科の斎藤能彦先生、尾上健児先生、中野知哉先生に厚く御礼申し上げます。

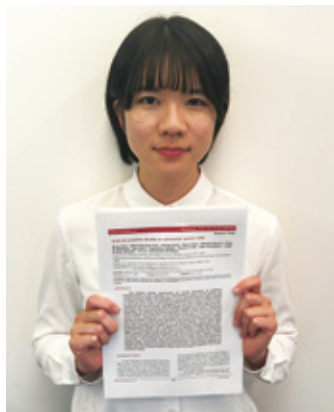


5.19

研究結果を論文に出版しました

医学科6年 喜多 真由

私は、3年生の時から分子病理学教室で研究を行ってきました。今回、その成果を筆頭著者英文論文として発表することが出来ました。"Role of creatine shuttle in colorectal cancer cells" というタイトルで、Oncotarget (2023 May 19; 14: 485-501, 2023) に掲載されました。この研究で、私はミトコンドリア・クレアチンキナーゼと細胞質内のクレアチンキナーゼ B がミトコンドリア内の酸化リン酸化で生成された ATP をリン酸化クレアチンの形で細胞質へ移送し、エネルギーとして増殖などに使用するとともに、増殖因子などのシグナル伝達経路におけるリン酸化に供与されていることを明らかにしました。これらの結果から、クレアチンシャトルはがん治療の新たな標的となることが期待されます。研究をご指導いただいた分子病理学教室の國安弘基教授に厚くお礼を申し上げます。



5.26

千里ライフサイエンスセミナーを 開催しました

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

「千里ライフサイエンスセミナー V1」で「相分離がもたらす医療・創業の新展開」と題して、吉村成弘先生（京都大学）と共に、森（未来基礎医学）がコーディネーターを務めました。演者には、齋尾智英先生（徳島大学）・渡邊千穂先生（広島大学）・浅川和秀先生（国立遺伝学研究所）・塩見美喜子先生（東京大学）・野田展生先生（北海道大学）・佐伯泰先生（東京大学）を招き、相分離に関する最先端の研究成果について活発な議論が行われました。



セミナーで講演する森准教授

5.31

白衣授与式を開催しました

看護学科1年生 85名を対象に白衣授与式を執り行いました。

1年生を代表して総代の平野さんが白衣を授与され、演習や実習に臨むことへの意気込みを話されました。

白衣授与後、川上看護学科長と田中看護教育部長から激励のお言葉があり、白衣を身にまとうことの意味を理解し、本学でしっかりと看護について学んでほしいとメッセージを送られました。

学生は凛然とした姿で授与式に参加しており、これから白衣を着用して学んだことを社会に出て実践する様子が想像でき、学生の将来が楽しみになりました。



白衣を授与される様子

意気込みを話す総代

6.10

大学院看護学研究科のオープンキャンパス 2023 を開催しました

大学院看護学研究科のオープンキャンパスを開催しました。今年は39名にご参加いただき、大盛況に終えることができました。

プログラムとしては、「看護学研究科長の挨拶」、「コースの概要説明」、「個別相談会」、「先輩との座談会」等を行いました。

参加者からは、「大学院での生活や勉強法など具体的な話を聞くことができ、入学後のイメージがしやすかった。」や「興味深い内容がたくさんあり、助産についてより学びたいと思った。」などの感想が聞かれました。

令和6年度の入学試験は、8月21日(月)(二次募集：12月1日(金)[※])に実施されます。

※一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。



看護学研究科長挨拶

6.11

山内基雄教授が第3回エコマミ公開講座で講演を行いました

エコマミ公開講座は、香芝市と広陵町にまたがる真美ヶ丘ニュータウンにおける地域連携の取組みとして、両行政とエコー・マミを運営する株式会社関西都市居住サービスの共同企画により実施している市民公開講座です。

今回は「生活・環境」をテーマに開催され、臨床病態医学の山内基雄教授が「睡眠から見た心と体の健康づくり～あなたは睡眠に満足していますか?～」と題して講演を行いました。「人はなぜ眠るのか?」から始まり、「睡眠の役割は?」、「何時間眠ればよい?」など多くの疑問を紐解きながら、健康な眠りについてわかりやすく解説されました。多くの市民が聴講され、熱心に耳を傾けておられました。



山内教授

7.14

模擬国連チームの健闘が学内でも表彰されました

7月14日、細井学長から模擬国連チームに表彰状が手渡されました。これは、4月に行われた模擬国連世界大会ニューヨーク大会での功績を讃えるものです。細井学長と嶋医学部長に励まされ、チームは本学の発展にさらに貢献していきたいと決意を新たにしました。



細井学長から賞状を受け取る NMUN チーム



表彰後の歓談

院内外来ボランティア「ラポール」活動再開

附属病院では平成12年から患者サービスの向上を図るため、外来において病院ボランティア「ラポール」を導入しています。

新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年からボランティア活動を休止していましたが、令和4年10月から活動を再開し、ひなまつり、こどもの日、七夕等の季節のイベント、外来患者さんの誘導・案内、窓口の飾りつけなど、外来で積極的に活動していただいております。

他にも外来でお手伝いできることがございましたら、病院管理課までお問い合わせください。



七夕飾りの様子

4.24
~
7.10

MBT 特命教員による医学部生への公開講義

本学では、MBT の目標である産業と医学を結びつけ、イノベーションを起こす実力又は実績があると認められる方に MBT 特命教員の称号を授与しています。現在5名の方々に MBT 特命教員に就任いただいております、ご自身の豊富な人生経験をもとに毎年1回本学の学生に、幅広い視野を持つ人間に育成されるよう講義をしていただいております。

MBT 特命教員

- ・100円ショップダイソー創業者 矢野博丈氏
- ・DMG 森精機代表取締役 森 雅彦氏
- ・パナソニックホールディングス特別顧問 長榮周作氏
- ・医療法人梅華会理事長 梅岡比俊氏
- ・クオールホールディングス会長 中村 勝氏

今年も各教員からご講義をいただき、若い医学生の道しるべとなるお話をいただきました。矢野氏、森氏、梅岡氏、中村氏の講義の様子は二次元バーコードからご覧いただけます。



矢野氏(5月15日)
「厳しい日本」



森氏(5月22日)
「工作機械の世界とDMG森精機の経営ビジョン」



長榮氏(7月10日)
「剣道と経営」



梅岡氏(4月24日)
「医師の視点から考える起業家精神」



中村氏(6月5日)
「50歳からの0スタート経営」



(学内限定)

7.3
~
8.31

公的研究費の適正使用に係る研修会を開催しています

公的研究費の適正使用に係る研修会及び経理事務等説明会をWeb上の動画配信で開催しています。令和4年度は、文部科学省の定める「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」の改正に伴い、公的研究費の適正な執行の意識を向上させるための制度として、啓発活動を四半期ごとに実施しましたが、この取り組み結果についても報告しています。

なお、各所属には、コンプライアンス教育を徹底するため「公的研究費不正防止計画実施状況報告書」や「誓約書」の提出も求めています。

説明会の動画は7月3日から8月31日までの配信となっておりますので、多数の研究者、教室職員等に閲覧いただき、理解度チェックを提出していただくようお願いします。

今回の説明会資料についても、冊子で全ての所属に配布してお

りますが、データ等で必要な場合は、研究推進課の学内HPに資料や様式がありますので、ぜひご活用ください。

(資料) <https://www.naramed-u.ac.jp/gakunai/soshiki/kenkyu/fuseboshi/fuseiboushinotorikumi.html>

(様式) <https://www.naramed-u.ac.jp/gakunai/soshiki/kenkyu/yoshiki/kakushuyoshiki/shishutsu.html>

令和5年度公的研究費の適正使用にかかる研修会及び経理事務等説明会

1. 公的研究費に係る不正事例
2. 公的研究費不正防止計画について
3. 安全保障輸出管理について
4. 科学研究費助成事業に係る使用ルールについて
5. 公的研究費経理事務ガイドブック
6. 検収センターについて



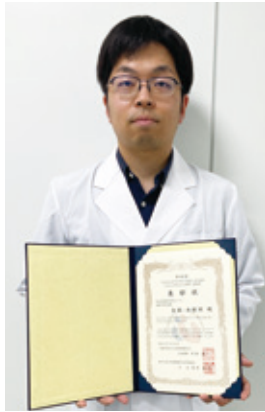
法人企画部 研究推進課

Winner Report

3.11 第87回日本循環器学会学術集会で Young Investigator Award 優秀賞を受賞しました

循環器内科学 医員 金岡 幸嗣朗

3月に福岡で開催された日本循環器学会学術集会で、Young Investigator Award 優秀賞 (Clinical Research 部門) を受賞しました。本賞は、40歳未満の学会員が行う研究のうち、優れた演題を表彰するものです。受賞演題は、「Outcomes and Prognostic Factors of Histologically-Proven Fulminant Myocarditis」で、全国200以上の施設から登録をいただき、我が国における劇症型心筋炎の診療実態と予後予測因子について報告を行いました。本研究にあたり、斎藤名誉教授、尾上講師をはじめ、循環器内科学講座の諸先生方にご指導、ご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。本受賞を励みにして、今後の研究を進めていきたいと思っております。



3.31 MSD社のCRC Award 2022を受賞しました

臨床研究センター 治験コーディネーター 宇山 莉子

この度、MSD社のCRC Award 2022を受賞しました。同賞はMSDの治験に貢献したCRCを表彰するもので、今回、腎細胞癌患者を対象としたMK-6482の第Ⅲ相試験において、日本で初症例を組み入れた実績、及び腎細胞癌に対する術後補助療法におけるMK-6482とMK-3475の併用療法の第Ⅲ相試験において、日本で最も多くの症例を組み入れた実績が評価され、同賞に選定いただきました。2020年度に受賞されたCRC木原さんに続く名誉な受賞であり、大変光栄に感じております。この受賞は、泌尿器科の先生方、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師および事務職員など治験に関わる皆様によるチームの成果が、高く評価されたものと思います。この受賞を今後の仕事の励みにしていきたいです。



4.13 産学官連携特別賞を受賞されました

放射線診断・IVR学講座の田中利洋教授が、りそな中小企業振興財団等が設ける第35回中小企業優秀新技術・新製品賞において「産学官連携特別賞」を受賞されました。

毎年、中小企業の優れた新技術・新製品の表彰が行われ、表彰された作品の中から大学など公的機関が技術指導面で貢献していた作品には、当該公的機関の担当者個人に産学官連携特別賞が与えられます。

田中教授はプラスチック製品や試作金型の製造を行っているテクノグローバル(株)と腫瘍の確定診断時に使用する生検針の角度を表示する装置「生検針穿刺ナビゲートシステム」の共同開発に携わっておられ、本製品が奨励賞を受賞し、田中教授は日本産業の発展と中小企業の技術振興に大きく貢献したと認められ「産学官連携特別賞」を受賞されました。



中村産学連携コーディネーター (左)、田中教授 (右)

今後も本学での研究成果を産業の発展に寄与できるように、さらなるご活躍を期待しております。



4.19 「第32回日本泌尿器科学会研究助成金」を受賞しました

泌尿器科学 講師 三宅 牧人

このたび、日本泌尿器科学会総会(於 神戸)において、第32回日本泌尿器科学会研究助成金を受賞いたしました。1992年に創設された本賞は、泌尿器科学及び関連領域の研究において独創的テーマに意欲的に従事している研究者に贈られるものです。受賞テーマは「上部尿路癌における光干渉断層撮影の壁深達度診断精度に関する研究」であり、当教室が積極的に取り組んでいる腎臓温存治療が相応しいと考えられる症例や、腎臓摘除前の抗がん剤治療が望ましい症例を、いかに選別するか注目した臨床研究です。本研究の立案から開始にあたりまして、当科 藤本清秀教授、循環器内科 上田友哉先生をはじめ、多くの方々のご支援・ご協力を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。



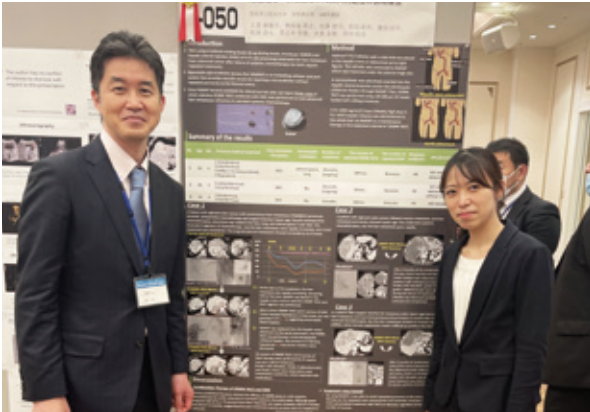
Winner Report

5.18

第52回日本IVR学会総会 最優秀ポスター賞受賞

放射線診断・IVR学 医員 入里 真理子
(現：愛知県がんセンター勤務)

5月18日～20日にかけて行われた第52回日本IVR学会総会において最優秀ポスター賞を受賞しました。発表内容の「大腸癌肝転移に対するマイクロカテーテル挿入可能な埋込型ポート (ReMAP) を用いた DEBIRI と肝動注の併用療法」は、標準化学療法不応となった大腸癌肝転移の患者様にも、カテーテル治療でもう一度チャンスを得ることができるという期待を込めた発表になっています。これからもIVRで癌患者さんの治療に貢献できるよう、より一層の努力を重ねていきたいと思っております。この場をお借りしてご指導いただいた田中利洋教授はじめ、放射線診断・IVR学講座の先生方に感謝申し上げます。



5.25

国際ソロプチミスト奈良一あすか 女性研究者賞を受賞されました

国際ソロプチミストは、女性と女兒の生活と地位を向上させるための奉仕活動を行い、世界の様々な女性の地位向上を目指す組織です。国際ソロプチミスト奈良一あすかクラブでは、将来性のある研究を行う優秀な女性を表彰する目的で女性研究者賞を創設しています。本学からは、奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞を受賞した研究者を毎年推薦しています。

この度、小児科学の野上恵嗣教授ならびに女性研究者・医師支援センターから推薦を受けた古川晶子助教が、「インヒビター保有軽症・中等症血友病A症例のF8変異を導入したモデルマウスを用いたインヒビター発現リスクの検討」という研究テーマで、国際ソロプチミスト奈良一あすか女性研究者賞を受賞されました。



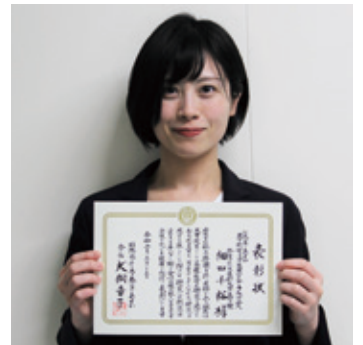
小児科学 古川晶子助教

5.25

国際ソロプチミスト奈良一あすか大学院 女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました

国際ソロプチミスト奈良一あすかでは、大学院女子学生を対象として、将来社会に貢献し得る人材を育成するための奨学金を設置しています。本学では、女性研究者・医師支援センターが主体となり、毎年1名の候補者を学内で選考しています。

本年度は、血栓止血先端医学の辰巳公平准教授から推薦を受けた細田千裕先生 (医学研究科 博士課程3年) が、「体細胞からの血管内皮前駆細胞作成と血友病A細胞治療への応用」という研究テーマで、国際ソロプチミスト奈良一あすか大学院女子学生奨学金クラブ賞を受賞されました。



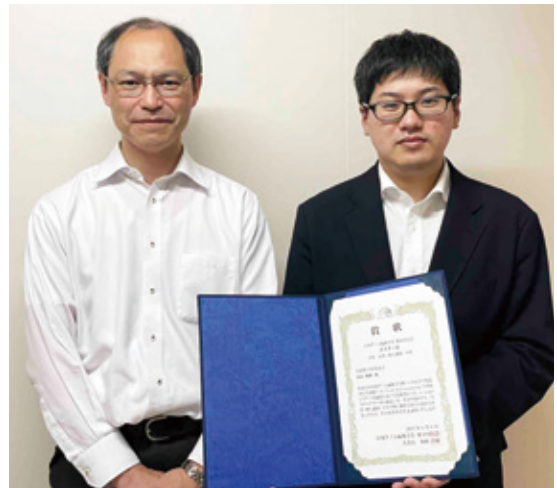
血栓止血先端医学 細田千裕先生

6.8

日本ゲノム編集学会第8回大会で 優秀ポスター賞を受賞しました

医学科6年 東谷 優輝

6月6日～8日に開催されました日本ゲノム編集学会第8回大会で優秀ポスター賞を受賞しました。演題名は「Long-read sequencing で判明したゲノム編集において見逃されうる on-target でのベクター挿入様式」です。最新のsequencing技術を用いてゲノム編集の過程で生じる予想外の組換え様式を明らかにし、その知見に基づいて、正確な組換え体を単離するための方法を示しました。ご指導いただいた堀江教授をはじめ第二生理学の先生方に厚く御礼申し上げます。(受賞の研究内容は、東谷君が筆頭著者として Scientific Reports 誌に受理されました。第二生理学・教授・堀江恭二)



6.11

第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 大会長賞を受賞しました

総合医療学 医員 小林 正尚

5月12～14日に開催された、第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会にて、演題「宇陀市の移動診療開始に伴う受療負担の変化」を発表し、大会長賞を受賞しました。

当科は奈良県の過疎地医療対策を推進しており、その一環として宇陀市の移動診療車の導入に携わってきました。本研究は移動診療車が、地域住民の受診に与える影響を検討したものです。今回の受賞は、地域医療を担う者として非常に励みになりました。本研究や発表に際してご指導いただきました西尾先生をはじめ、ご指導賜りました先生方に心から感謝申し上げますとともに、本研究の関係者皆様にもこの場をお借りして深く御礼申し上げます。



6.16

日本肝臓学会賞（織田賞）を受賞しました

消化器内科学 教授 吉治 仁志

今回の受賞研究課題「肝硬変の病態解析と治療法開発」は、当科が故辻井正先生、故福井博先生から教室として長年にわたって取り組んで来たテーマであり、本研究で公立大学として初めて日本肝臓学会最高賞を受賞できたことは当科教員にとって大きな喜びです。また、今回は私が会長を務めさせていただいた奈良で30年ぶりに開催されました第59回日本肝臓学会総会で授賞式ならびに受賞講演を行わせていただくことができました。



6.17

奈良県立医科大学医学部医学科同窓会 海外留学助成金 厳樞学術奨励賞 受賞者決定

奈良県立医科大学医学部医学科同窓会総会において、令和5年度厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました。この賞は、母校の発展の一助とするため、海外での学術の研究、調査等に従事する者に対し、同窓会がその費用の一部を助成金として支給しているものです。

今回の受賞者は、産婦人科学講座の三宅龍太助教に決定しました。令和5年9月1日から3年間の予定で、アメリカのカリフォルニア大学サンディエゴ校に留学される予定です。



6.22

第8回日本がんサポーターブケア学会で最優秀演題賞を受賞しました

分子病理学 大学院生 額賀 翔太

6月22～24日に奈良市で開催された第8回日本がんサポーターブケア学会で、最優秀演題賞に選ばれました。受賞した発表は「中鎖脂肪酸のカプリル酸はケトン体を介して炎症性サイトカインを抑制し、がん悪液質由来心筋障害を軽減する」というものです。ラット悪液質モデルおよびin vitro悪液質モデルを用いて、中鎖脂肪酸の中でもカプリル酸がケトン体生成を促進し、炎症性サイトカインにより障害されたミトコンドリアエネルギー産生を改善することにより心筋保護作用を示すことを解明したものです。ご指導下さった國安弘基教授ほか多くの先生方にこの場をお借りし深く感謝申し上げます。



6.23 日本精神神経学会 国際学会発表賞を受賞しました

精神医学 助教 水井 亮

この度、2022年9月21～23日に開催された The 9th Mismatch Negativity Conference のシンポジウムにおいて「Mismatch Negativity in Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder」のタイトルで発表した演題を評価していただき、2022年度日本精神神経学会 国際学会発表賞を受賞することができました。これは、注意欠如・多動症 (ADHD) における認知機能異常について事象関連電位を用いて検討し、さらに ADHD における薬物治療前後で比較することで治療効果を客観的に評価できる state marker としての有用性についても検討したものです。また、精神科の諸先輩方が日頃の忙しい臨床業務の中で研究活動にも力をいれ、業績を蓄積してきたからこそであると思います。この場をお借りして皆様に深く御礼申し上げます。また、これを励みに今後も研究に精進して参りたいと思います。



7.10 横断的共同研究助成事業及び若手研究者研究助成事業が採択されました

本学の研究の一層の推進を目指して行われている横断的共同研究助成事業・若手研究者研究助成事業について、今年度は下記の研究課題が採択されました。

本学の将来像に定めた横断的・共同研究を推進するための横断的共同研究助成事業には、3件の応募があり、消化器・総合外科学 中村助教が研究代表者である共同研究が採択され、500万円が助成されます。

また、若手研究者研究助成事業には11件の応募(うち2名資格対象外)があり、下記の9名が採択され、それぞれ50万円が助成されます。

■ 横断的共同研究助成事業 採択者

所属名	職	氏名	研究課題名	共同研究者
消化器・総合外科学	助教	中村 広太	切除可能膵癌予後予測を目的とした多種核酸複合リキッドバイオプシーの構築	①消化器・総合外科学 教授 庄 雅之 ②分子病理学 教授 國安 弘基 ③放射線診断・IVR学 教授 田中 利洋 ④免疫学 教授 伊藤 利洋 ⑤がんゲノム・腫瘍内科学 教授 武田 真幸 ⑥消化器・総合外科学 学内講師 安田 里司 ⑦消化器・総合外科学 学内講師 長井 美奈子

■ 若手研究者研究助成事業 採択者

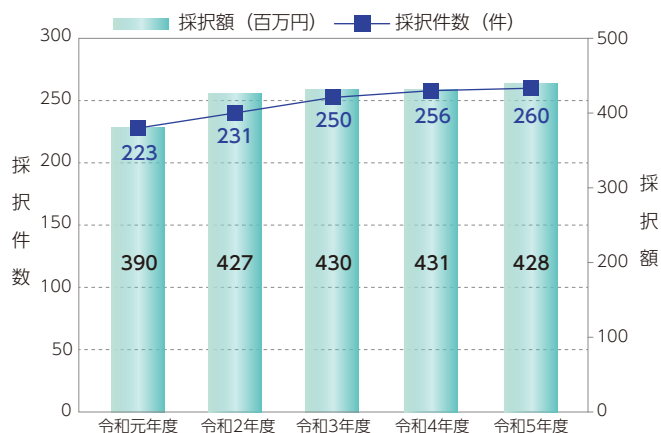
所属名	職	氏名	研究課題名
感染症センター	助教	西原 悠二	セレウス菌の薬剤耐性・病原性遺伝子の解析による感染症病態の解明
脳神経内科学	医員	清水 宏紀	神経筋疾患におけるオートファジー機構破綻の機序解明
消化器・総合外科学	医員	青木 理子	進行・再発胃癌の治療効果をモニタリングする新規miRNAパネルの開発
消化器・総合外科学	医員	小原 有一朗	集学的治療の適格化を目指した網羅的解析による胆道癌再発予測miRNAパネルの開発
消化器・総合外科学	医員	阪田 武	肝細胞癌におけるT細胞不活化シグナル CIN85を標的とした新規免疫治療法の開発
脳神経内科学	診療助教	田中 聡人	急性期脳卒中患者における、フローチャートを用いた嚥下機能評価および栄養評価の確立および機能予後への影響
脳神経内科学	医員	西森 裕佳子	抗ミトコンドリアM2抗体陽性筋炎の臨床病理学的特徴と病態の解明
消化器・総合外科学	医員	藤本 浩輔	個別化治療を目指した下部進行直腸癌の側方リンパ節転移予測miRNAパネルの開発
消化器・総合外科学	医員	田村 昂	High output syndromeに対するDPP-IV阻害薬を用いた新規治療戦略

令和5年度 文部科学省科学研究費助成事業の決定

令和5年度 科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金（文部科学省、独立行政法人日本学術振興会））が決定しました。5月1日現在の状況は下記のとおりです。

来年度においても積極的な応募申請をよろしくお祈りします。

	採択件数 (件)	採択額 (千円)	経費	
			直接経費	間接経費
令和5年度	260	428,470	332,800	95,670
令和4年度	256	431,160	332,100	99,060
令和3年度	250	429,840	330,900	98,940
令和2年度	231	426,980	328,700	98,280
令和元年度	223	390,040	300,280	89,760



令和5年度 文部科学省科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）一覧

研究種目	教室名 (R5.5.1)	職名 (R5.5.1)	氏名	研究課題名	研究期間
新学術領域研究 (研究領域提案型)	第二生理学	助教	吉田 純子	多能性幹細胞の分化制御機構の情報物理学的解析	2022～2023
学術変革領域研究 (A)	精神医学	准教授	牧之段 学	脳内外をつなぐ髄膜および脳血管周囲腔マクロファージの役割解明	2023～2024
学術変革領域研究 (A)	第一生理学	准教授	眞部 寛之	匂いを多次的価値に変換する神経回路機構の解明と質感の客観的評価法の構築	2023～2024
基盤研究 (A)	発生・再生医学	教授	栗本 一基	組織学と複合した単一細胞 DNA メチル化解析法による原始卵細胞淘汰過程の解明	2020～2024
基盤研究 (A)	血栓止血研究センター	センター長	嶋 緑倫	血友病 A 治療を目指したユニバーサル細胞療法の創出	2020～2023
基盤研究 (A)	公衆衛生学	准教授	野田 龍也	疫学と臨床医学、情報工学の融合によるデータベース医学の標準的疾患定義の開発	2020～2024
基盤研究 (A)	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療・介護・健診連結データを用いた意思決定に資するリアルワールドエビデンスの構築	2023～2027
基盤研究 (B)	麻酔科学	教授	川口 昌彦	術後生活機能障害の5年間追跡調査とプレハビリテーションプログラムの有効性評価	2019～2023
基盤研究 (B)	疫学・予防医学	特任准教授	大林 賢史	光曝露が糖尿病・心血管疾患・がん・認知症の発症および予後に及ぼす中長期影響	2019～2023
基盤研究 (B)	第二生理学	教授	堀江 恭二	全能的状態の誘導による人工的動物個体作製法の開発	2020～2023
基盤研究 (B)	発生・再生医学	准教授	小林 久人	ゲノム刷り込み機構の機能的多様性を明らかにする種間インプリントーム比較解析	2021～2024
基盤研究 (B)	皮膚科学	准教授	新熊 悟	復帰変異モザイクモデルマウスを用いた表皮細胞の増殖優位性獲得機序の解明	2021～2023
基盤研究 (B)	胸部、心臓血管外科学	病院教授	澤端 章好	末梢血循環癌細胞 (CTC) の Liquid biopsy 標的としての含意探索	2021～2023
基盤研究 (B)	化学	教授	酒井 宏水	人工赤血球の一酸化炭素 / 酸素運搬機能の最適化による出血性ショック蘇生効果の向上	2021～2023
基盤研究 (B)	循環器内科学	博士研究員	斎藤 能彦	収縮性の保持された心不全の発症・進展機序の解明に関する研究	2022～2024
基盤研究 (B)	公衆衛生学	助教	西岡 祐一	医療・介護・健診連結ビッグデータを用いた内分泌代謝疾患のリアルワールド解析	2022～2026
基盤研究 (B)	産婦人科学	教授	木村 文則	子宮内細菌叢形成の探求とそれに基づいたプレコンセプションケアの開発	2023～2025
基盤研究 (B)	在宅看護学	教授	小竹 久美子	喉頭全摘出者の退院後の QOL 向上を目指す継続看護チームの介入：RCT による縦断調査	2023～2027
基盤研究 (C)	中央手術部	助教	阿部 龍一	直腸癌手術における電極付き尿道カテーテルを用いた術中排尿機能モニタリングの検討	2020～2023
基盤研究 (C)	集中治療部	助教	園部 熒太	血管内皮細胞から ARDS の病態を解明する - ヒストン修飾酵素 SETDB2 の意義 -	2020～2023
基盤研究 (C)	理論基礎看護学	教授	松田 明子	RA 患者の周術期におけるハイリスク薬剤管理に関する医療安全教育プログラム構築	2020～2023
基盤研究 (C)	精神看護学	准教授	奥田 淳	医療観察法通院処遇対象者への訪問看護における看護実践指針の開発	2020～2023
基盤研究 (C)	母性看護学	講師	木村 奈緒美	乳児を育てる母親の産後うつを予防し、育児をポジティブに捉えるプログラムの開発	2021～2023
基盤研究 (C)	第一生理学	教授	齋藤 康彦	モノアミンによる眼球運動系神経積分器の調節機構	2021～2023
基盤研究 (C)	第二解剖学	教授	和申 明生	真皮マクロファージにおける新規の炎症疼痛制御因子の機能解析	2021～2023
基盤研究 (C)	生化学	助教	山内 晶世	膵β細胞におけるグルコース応答性インスリン翻訳調節機構の解明	2021～2023
基盤研究 (C)	病理診断学	准教授	藤井 智美	浸潤性膀胱癌に特異的に発現するマイクロ RNA および分化マーカーの発現機序の解明	2021～2023
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	羅 亮	マイクロ RNA を用いた HMGB1 標的化 - 新規トリプルネガティブ乳癌治療戦略の検討	2021～2023
基盤研究 (C)	化学	准教授	山本 惠三	新規抗菌薬開発に向けた IMP 型タロ - β - ラクタマーゼと基質複合体の X 線結晶解析	2021～2023
基盤研究 (C)	免疫学	助教	王寺 典子 (下嶋典子)	免疫チェックポイント分子 HLA-F を標的とした新規がん免疫療法の開発	2021～2023
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	助教	越智 朋子	ナノ DDS を応用した腎毒性を低減できる新規ヨード造影剤の開発と体内動態の解明	2021～2023
基盤研究 (C)	総合画像診断センター	助教	山内 哲司	イメージング質量分析を用いた肝細胞癌 TAE 後の再発機序およびバイオマーカー探索	2021～2023
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	教授	田中 利洋	腫瘍内微小環境を考慮したエマルジョンを用いた新規カテーテル治療の開発	2021～2023
基盤研究 (C)	医学研究支援センター RI 実験施設	准教授	菓子野 元郎	放射線障害に関わる遅発性活性酸素と核外シグナルの機構解明	2021～2023
基盤研究 (C)	小児科学	教授	野上 恵嗣	血液凝固の第Ⅷ因子制御に基づく血友病 A 及び血栓性疾患の新規治療薬開発の基礎的研究	2021～2023
基盤研究 (C)	小児科学	博士研究員	小田 朗久	血友病 A インヒビター産生応答を制御する脾臓免疫ニッチの同定	2021～2023
基盤研究 (C)	消化器内科学	教授	吉治 仁志	Drug Repositioning と Leaky Gut 制御による新規肝硬変治療	2021～2023
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	講師	市橋 成夫	PAD 患者下肢動脈血行再建後のサルコペニア改善に関する前向きコホート研究	2021～2023
基盤研究 (C)	循環器内科学	講師	尾上 健児	たこつば症候群の発症メカニズム解明を通じた新規心不全治療ターゲットの探索	2021～2023
基盤研究 (C)	免疫学	講師	北島 正大	脂質代謝関連分子 ANGPTL4 による肺線維症の病態解明と新規治療戦略の確立	2021～2023
基盤研究 (C)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	DIHS における HHV-6 持続感染に着目した自己免疫疾患の発症機序の解明	2021～2023
基盤研究 (C)	乳腺センター	准教授	池田 直也	独自の遺伝子パネル作成によるトリプルネガティブ乳癌の革新的免疫併用治療戦略の構築	2021～2023
基盤研究 (C)	脳神経外科学	博士研究員	本山 靖	陰部テタヌス刺激による小児術中 MEP 増幅法の開発	2021～2023
基盤研究 (C)	玉井進記念四肢外傷センター	医員	岡田 博	液体窒素処理による切断肢の長期凍結保存と再接着に関する実験研究	2021～2023
基盤研究 (C)	泌尿器科学	教授	藤本 清秀	後腹膜肉腫におけるプレシジョン術前補助免疫化学療法法の確立を目指した基盤研究	2021～2023
基盤研究 (C)	寄附講座前立腺小線源治療講座	教授 (寄附講座)	田中 宣道	5 - アミノレプリン酸による前立腺癌の放射線増感効果と有害事象抑制効果の同時解明	2021～2023
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	岩井 加奈	子宮腺筋症の遺伝子発現プロファイルによる分類法の確立	2021～2023
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	岡安 唯	骨導超音波を用いた人工内耳のための新しい術前聴力検査の開発	2021～2023

Winner Report

研究種目	教室名 (R5.5.1)	職名 (R5.5.1)	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (C)	口腔外科学	講師	堀田 聡	微小動揺を指標としてインプラントの免荷期間を再検証する	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	杉浦 勉	埋入トルク値がインプラント周囲骨の長期安定性に及ぼす影響および適正トルク値の解明	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	准教授	山川 延宏	高悪性度口腔癌の再発・転移にかかわる遺伝子の解明	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	栗原 都	PXDN によるがん代謝と微小環境を標的とした口腔癌の治療ストラテジー	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	医員	松末 友美子	光バイオプシーとリキッドバイオプシーを用いた口腔癌の早期診断システムの開発	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	講師	柳生 貴裕	薬剤関連顎骨壊死の発症メカニズムの解明と新規予防法 / 治療法の開発	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	口腔外科学	医員	山本 一彦	抗 claudin-4 抗体による口腔癌に対する化学療法増強効果	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	消化器内科学	准教授	赤羽 たけみ	歯周病と慢性肝疾患病態の関連解明 - 新たな肝疾患進展予防施策の探索	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	整形外科	博士研究員	田中 誠人	がん転移診療システム構築に向けての取り組み	2021 ~ 2024
基盤研究 (C)	臨床研究センター	教授	笠原 正登	腎臓病進展予防を目指した治療介入アプリの開発	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	女性研究者・ 医師支援センター	講師	須崎 康恵	女性医師のアカデミックキャリア向上を目指した新たな教育プログラムの開発	2021 ~ 2024
基盤研究 (C)	教育開発センター	特任講師	岡本 左和子	在宅医療・介護職視点の認知ギャップを踏まえた医療介護連携促進への対策ツールの開発	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	糖尿病・内分泌内科学	医員	毛利 貴子	糖尿病患者の治療意欲を引き出す新たな行動変容促進アプリの開発	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	微生物感染症学	准教授	中野 竜一	抗菌薬治療に伴う薬剤耐性菌出現の実態解明ならびにそのメカニズム解明	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	糖尿病・内分泌内科学	講師	岡田 定規	レセプト情報を用いた新たな糖尿病性腎症重症化ハイリスク因子の探索	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	糖尿病・内分泌内科学	医員	紙谷 史夏	SGLT2 阻害薬で下肢切断リスクは増えるのか? : ビッグデータを用いた解析	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	法医学	教授	粕田 承吾	スズラン毒 (convallatoxin) の凝固機能に及ぼす影響	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	成人慢性期看護学	准教授	升田 茂章	分子標的薬内服治療による手足皮膚反応重症化を予防する看護ケアガイドラインの開発	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	母性看護学	教授	五十嵐 穂子	入院時の分娩進行度と医療介入の関連を基軸とした入院のための診断基準の構築	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	藤井 澄	COVID-19 関連サルコペニアに対する栄養介入と運動負荷の併用の効果	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	精神医学	博士研究員	松田 康裕	高機能自閉症者に適した低強度運動プログラムの効果検証	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	久保 薫	シナリオオプティクスの粘膜炎免疫機構を活かした自己免疫疾患の予防・治療に関する研究	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	法医学	講師	工藤 利彰	拡張不全における新規誘導型内皮由来過極因子による末梢循環調節機構の解明	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	化学	講師	松平 崇	星形構造を持つヘモグロビンポリマーの創製と赤血球代替物への応用を志向した物性制御	2021 ~ 2023
基盤研究 (C)	人間発達学	教授	太田 豊作	自殺予防のための自閉スペクトラム症のある子どもの自殺リスクと自尊感情の検討	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	第一解剖学	講師	堀井 謙子	未知なものに対する不安・葛藤と行動を調節する神経回路の解明	2022 ~ 2025
基盤研究 (C)	生物学	講師	小林 千余子	淡水棲マミズクラゲがもつ3つの謎 (性決定、芽体形成、生物伝播) の解明に迫る	2022 ~ 2025
基盤研究 (C)	第二解剖学	准教授	辰巳 晃子	脳内に局在する Olig2 由来アストロサイト亜集団の機能解析	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	脳神経内科学	准教授	形岡 博史	コロナ禍とパーキンソン病患者: うつ症状の経年変化、睡眠・身体活動測定値の前後比較	2022 ~ 2025
基盤研究 (C)	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	オートファジー関連神経筋疾患におけるタンパク質恒常性の破綻機序解明	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	脳卒中センター	病院教授	斎藤 こずえ	超高速超音波イメージングを用いた血流解析による頸動脈プラーク不安定性評価	2022 ~ 2025
基盤研究 (C)	精神医学	講師	鳥塚 通弘	免疫系細胞とヒト iPS ニューロン共培養系による ASD の病態解析	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	RI 実験施設	博士研究員	小橋川 新子 (菓子野新子)	ミトコンドリアからのシグナルは放射線による炎症誘発に関与するか?	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	小児科学	講師	荻原 建一	友友病 A とフォンウィルブランド病治療薬の半減期を規定するクリアランス受容体の探索	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	消化器内科学	博士研究員	守屋 圭	抗酸化 Nrf2 経路賦活による PBC の病態改善 - ヘスベリジンを用いた新治療 -	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	消化器内科学	医員	高谷 広章	血液凝固抑制因子 ADAMTS13 による急性肝不全新規治療法とバイオマーカーの開発	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	循環器内科学	助教	中川 仁	ネプリライシンの心不全改善効果に寄与する基質の優位性の解明	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	病原体・感染防御医学	助教	北村 知嵩	肺由来コンボジットマテリアルによる多能性幹細胞から肺オルガノイドの創出と機能解析	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	血液内科学	教授	松本 雅則	後天性・血栓性血小板減少性紫斑病の動物モデルの作成	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	微生物感染症学	教授	矢野 寿一	高病原性を示すカルパペネマーゼ産生肺炎桿菌の分子疫学と治療法構築に向けた研究	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	准教授	澤井 利夫	新生児壊死性腸炎の新たな病因および治療: 消化管サーファクタントの関与の検討	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	講師	久下 博之	クローン病肛門病変に対する組織工学および免疫制御による新規局所療法の開発	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	学内講師	安田 里司	肝細胞癌に対する血管新生阻害併用免疫療法における耐性機序の解明と新規治療法の開発	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	寺井 太一	CA9 を標的とした肝癌の予後予測と個別化新規治療戦略の開発	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	宮尾 晋太郎	FFPE 標本に対する超高感度微量解析のための革新的 cDNA 合成法の開発	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	がんゲノム・腫瘍内科学	医員	竹井 健	免疫グロブリン膜貫通型糖タンパク Nectin-4 阻害による大腸癌新規治療法の探求	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	胸部・心臓血管外科学	助教	武村 潤一	人工赤血球を用いた人工心肺充填による臓器保護効果	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	中央手術部	医員	大井 彩子	子宮癌手術中における電極付き尿道カテーテルを用いた排尿機能モニタリングの有用性	2022 ~ 2025
基盤研究 (C)	集中治療部	助教	野村 泰充	救命救急センターで分離された ESBL 産生大腸菌の患者背景と分子疫学的解析	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	救急医学	助教	川井 廉之	敗血症の原因菌に対する迅速同定検査法の確立	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	脳神経外科学	博士研究員	中澤 務	チェックポイント分子 HIF1 α をゲノム編集した NK 細胞による膠芽腫治療法の開発	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	脳神経外科学	博士研究員	中瀬 裕之	脳虚血に対する脂肪組織由来幹細胞とエクソソーム治療の基盤的研究	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	脳卒中センター	病院教授	中川 一郎	ミトコンドリアカルシウムユニポーターを介した虚血耐性メカニズムの解明	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	整形外科	講師	藤井 宏昌	小児大腿骨頭壊死に対する改良骨髄間葉系幹細胞を用いた新規治療法の開発	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	今中 聖悟	子宮内膜症に対する酸化的自爆死を誘導する非ホルモン治療法の開発	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	山田 有紀	がん関連血栓症における新規卵巣癌マーカー TFPI-2 の作用機序の解明	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	松原 翔	新たな腫瘍マーカー組織因子経路インヒビター 2 による卵巣腫瘍の悪性の鑑別	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	三宅 龍太	eEF1a2 を target にした卵巣明細胞癌に対する新規治療法の開発	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	吉元 千陽	新たな磁気共鳴緩和測定法を用いた子宮内膜症関連不妊症の重症度の非侵襲的予知	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	山中 彰一郎	ARID1A 遺伝子変異卵巣明細胞癌に対する CDC6 による合成致死メカニズムの解明	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	木村 隆浩	頭頸部癌患者から作成したスフェロイドを用いたがん微小環境による EMT 誘導の解析	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	眼科	医員	吉川 匡宣	生体リズムに着目した緑内障患者の新たな眼外・眼内因子の探索: 前向きコホート研究	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	口腔外科学	助教	仲川 洋介	PIK ファミリー関連 DNA 修復機構を標的とする新規口腔がん治療戦略	2022 ~ 2025
基盤研究 (C)	哲学	准教授	池辺 寧	ハイデガーを手がかりにした現象学的医学哲学の構築	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	県民健康増進支援センター	特任教授	富岡 公子	健康長寿のための新しい生活様式 - 地域前向きコホート研究と公的統計を用いた研究 -	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	在宅看護学	講師	栗田 麻美	がん終末期在宅療養者における訪問看護師の臨床判断学習支援プログラムの開発	2022 ~ 2025
基盤研究 (C)	成人慢性期看護学	教授	田中 登美	がん薬物療法を受ける糖尿病患者を併せもつがん患者のセルフマネジメント構築支援の開発	2022 ~ 2025
基盤研究 (C)	母性看護学	講師	上田 佳世	低リスク出産の医療の質指標を用いた医療ケアの改善に向けたプログラムの運用	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	小児看護学	教授	川上 あずさ	自閉スペクトラム症児の母親の情緒的巻き込まれに着目した支援方法の構築	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	看護実践・キャリア支援 センター	講師	渋谷 洋子	思春期に骨肉腫を経験する子どもと親の闘病プロセスの解明	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	在宅看護学	助教	羽場 香織	喉頭摘出者の暮らしの再構築に向けた訪問看護師による支援の探究	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	佐々木 隆光	ミトコンドリア標的化による抗がん剤誘導心筋障害の改善	2022 ~ 2024

研究種目	教室名 (R5.5.1)	職名 (R5.5.1)	氏名	研究課題名	研究期間
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	川原 勲	糖化 HMGB1 の糖尿病性フレイルにおける役割とその抑制法の検討	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	化学	博士研究員	山田 孫平	リポソーム化した複合抗酸化剤による人工赤血球のメト化抑制とその機構の解明	2022 ~ 2024
基盤研究 (C)	臨床数学	講師	川口 良	トリーク多様体の偏極構造と凸多面体の関係の研究	2023 ~ 2026
基盤研究 (C)	第一生理学	助教	上田 壮志	大脳皮質オフライン情報処理に潜む機能構造	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	医学研究支援センター 動物実験施設	講師	米田 明弘	転移癌における抗癌剤抵抗性獲得機序の解明とその応用	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	第二解剖学	講師	田中 達英	真皮免疫細胞に着目した痛覚新規センシング機構の解明	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	精神医学	助教	井川 大輔	トラウマ症状を有する自閉スペクトラム症への反復的経頭蓋磁気刺激の有効性評価	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	精神医学	講師	山内 崇平	自閉スペクトラム症におけるマクロファージの貪食能に着目した病態解明	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	精神医学	博士研究員	芳野 浩樹	社会的経験により発達する前頭前野・小脳回路の解明 中脳水道周囲灰白質を中心に	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	准教授	西尾福 英之	がんの低酸素環境下におけるナノテクノロジーを用いた新規 IVR 治療の開発	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	総合画像診断センター	講師	宮坂 俊輝	イメージング質量分析と MRI による Glymphatic system の比較解析	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	放射線診断・IVR 学	医員	茶之木 悠登	肝細胞癌に対する新規 DDS を用いたレンパチニブ肝動注療法の開発	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	がんゲノム・腫瘍内科学	博士研究員	早川 正樹	肺血栓症における血管閉塞を血液マーカーで診断する方法の開発	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	呼吸器内科学	教授	室 繁郎	マウス肺気腫モデルにおける肺胞再生の定量的形態測定とヒト肺気腫画像との同定性	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	病原体・感染防御医学	准教授	王寺 幸輝	トレース機能を有する人工培養毛 iHair を用いた Wnt シグナルによる発毛制御	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	皮膚科学	講師	宮川 史	単球による Type2 炎症反応の抑制機構の解明と臨床応用	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	血栓止血医薬生物学共同 研究講座	助教 (共同研究講座)	坂田 飛鳥	血管透過性亢進病態における血管外凝固第 IX 因子の役割解明	2023 ~ 2026
基盤研究 (C)	感染症センター	医員	関根 隆博	大規模な大腸菌ゲノム解析による病原性・耐性遺伝子の共存関係および表現形質の特定	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	講師	秦野 修	塩誘導キナーゼ結合インタラクトームを介するステロイドホルモン産生組織の機能解析	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	消化器・総合外科学	医員	黒田 靖浩	T 細胞不活化因子 CD200 を標的とした神経芽腫に対する新規治療法の開発	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	集中治療部	准教授	恵川 淳二	プレハビリテーションによる虚血後運動障害予防効果とカベオリン 1 発現に関する研究	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	麻酔科学	助教	小川 裕貴	小児脊椎手術での電極付き尿道カテーテルを使用した術中排尿機能モニタリングの開発	2023 ~ 2026
基盤研究 (C)	中央手術部	助教	植村 景子	排尿機能評価として尿道括約筋から記録する球海綿体反射モニタリングの開発	2023 ~ 2026
基盤研究 (C)	総合医療学	医員	西尾 健治	腸管虚血再灌流による腸管傷害・肝傷害の発生・進展に対する ADAMTS13 の影響	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	在宅医療支援センター	特任助教	西村 信成	急性呼吸窮迫症候群の病態への ADAMTS13 への影響	2023 ~ 2026
基盤研究 (C)	薬理学	准教授	中平 毅一	超らせん構造型ミトコンドリア DNA の敗血症における機能的役割の解明	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	脳神経外科学	医員	前岡 良輔	糖化 PEG 修飾型免疫チェックポイント抗体と NK 細胞を用いた集学的免疫細胞治療の開発	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	脳神経外科学	学内講師	松田 良介	悪性髄膜腫に対する末梢血および臍帯血由来 NK 細胞を用いた免疫細胞療法の開発	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	脳神経外科学	准教授	西村 文彦	臍帯血由来 CAR-NK 細胞による膠芽腫治療法の開発	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	寄附講座手の外科講座	教授 (寄附講座)	面川 庄平	再生神経インターフェイスによる痛性神経痛神経腫の新規治療法の開発	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	泌尿器科学	講師	三宅 牧人	膀胱癌 BCG 療法の至適化を目指した腸内微生物メタボロゲノム解析	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	泌尿器科学	准教授	高本 一匡	間質性膀胱炎に関する腸内細菌叢での脂質代謝および血液バイオマーカーの開発	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	産婦人科学	博士研究員	重富 洋志	新たな経腔光学プローブによる子宮内膜症関連不妊症の非侵襲的予知	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	産婦人科学	助教	木村 麻衣	Dydrogesterone 経口投与の胎児発育不全に及ぼす影響の研究	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	産婦人科学	医員	脇 啓太	ヒドロキシクロロキンの習慣流産と妊娠高血圧症候群発症への影響に関する検討	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	耳鳴動物モデルの普遍化と治療法開発	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	めまい・難聴センター	病院教授	西村 忠己	軟骨伝導聴力および軟骨伝導補聴器の評価法に関する検討	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	今井 貴夫	メニエール病のめまい発作の機序の解明	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	学内講師	山下 哲範	動物実験モデルを用いた耳鳴治療の再検証と新規治療法の開発	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	口腔外科学	博士研究員	村上 和宏	埋入トルク値の違いによるインプラント体周囲骨組織に与える影響と最適トルク値の解明	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	微生物感染症学	講師	中野 章代	動物と密に接する環境が薬剤耐性菌受と腸内細菌叢に与える影響	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	臨床研究センター	特任講師	平田 匠	高齢者・中高年者における循環器疾患予防のための睡眠の介入可能性の探索	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	入浴事故予防にむけた疫学研究	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	成人慢性期看護学	講師	石橋 千夏	医療施設のクローン病消化サーベイランスの認識とクローン病患者のセルフモニタリング	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	公衆衛生看護学	准教授	坂東 春美	孤立出産のリスク要因とポスティブデビアンズによる強化的要素の解明と支援策の構築	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	分子病理学	博士研究員	大森 育	がん性悪液質の増悪因子である舌萎縮の機序解明と抑制法の検討	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	リハビリテーション医学	教授	城戸 顕	身体活動による快情動(心地よさ)を基盤とした新しいがんリハビリテーションの開発	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	脳神経内科学	医員	眞野 智生	深層筋解析を基盤とした脳血管障害後に対する歩行機能の再建研究	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	医学研究支援センター 組換え DNA 実験施設	教育教授	杉浦 重樹	DNA 損傷特異的人工エンドヌクレアーゼによる修復亢進の分子機構	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	臨床研究センター	助教	五十川 雅裕	CKD 病態マーカーとしてのキララミノ酸プロファイリングの有用性の検討	2023 ~ 2025
基盤研究 (C)	第一生理学	助教	上田 壮志	イメージングとグラフィカルモデリングによる睡眠中大脳皮質動態の解明	2020 ~ 2023
挑戦的研究 (萌芽)	病原体・感染防御医学	博士研究員	吉川 正英	吸血虫モデルによる in vitro 発育システムの開発	2021 ~ 2023
若手研究	救急医学	医員	増田 佳亮	脊髄離断モデルラットに対する骨髄間葉系幹細胞シート移植における移植時期の検討	2020 ~ 2023
若手研究	精神医学	助教	岡崎 康輔	成人期自閉スペクトラム症における性差と逆境的小児期体験の影響の検討	2020 ~ 2023
若手研究	精神医学	助教	松岡 究	新規タウ PET 薬剤を用いた認知症に共通するアパシーの病態基盤の解明	2020 ~ 2023
若手研究	集中治療部	助教	平賀 俊	人工赤血球投与による脊髄虚血改善に関する研究	2020 ~ 2023
若手研究	麻酔科学	講師	内藤 祐介	ヘモグロビン小胞体の AKI 予防効果についての検討	2020 ~ 2023
若手研究	成人急性期看護学	助教	森脇 裕美	心血管系手術を受ける高齢患者の足の形態および機能の検証とフットケアの実態	2020 ~ 2023
若手研究	精神医学	非常勤講師	木納 潤一	統合失調症者に対する運動課題と認知課題の多重課題プログラム CAT の効果検証	2020 ~ 2023
若手研究	第二生理学	助教	吉田 純子	順遺伝学で同定した新規遺伝子によるマウス・ヒトにおける神経分化制御機構の解明	2021 ~ 2024
若手研究	発生・再生医学	助教	池田 宏輝	空間的な単一細胞の遺伝子発現解析による始原生殖細胞の潜在的多能性の制御機構解明	2021 ~ 2023
若手研究	生化学	助教	牧野 舞	2 型リアノジン受容体の組織特異的スプライシングバリエーションの心筋機能との関連の解明	2021 ~ 2023
若手研究	病理診断学	助教	内山 智子	子宮平滑筋肉腫における ATRX 発現とその機能及び分子機構の解明	2021 ~ 2023
若手研究	放射線診断・IVR 学	助教	岩越 純一	腹部大動脈瘤に対するステント内挿術後の MRI 画像における Radiomics 解析	2021 ~ 2025
若手研究	第二生理学	講師	坂野 公彦	オンチップ血管網を用いた Sturge-Weber 症候群モデル構築と発症機序の解明	2021 ~ 2023
若手研究	消化器内科学	助教	辻 裕樹	NASH におけるエンドトキシンに腸管内吸着を介した肝発癌抑制治療の開発	2021 ~ 2024
若手研究	消化器内科学	学内講師	西村 典久	加齢による肝線維化進展促進に関わる新たな因子の同定とその分子学的メカニズム	2021 ~ 2023
若手研究	血栓止血先端医学	助教	三谷 成二	幹細胞由来肝類洞内皮細胞の作製と肝線維化治療への応用	2021 ~ 2023
若手研究	循環器内科学	医員	中野 知哉	心不全患者の心筋組織を用いた β アドレナリン受容体遮断薬の治療反応性予測指標の探索	2021 ~ 2023
若手研究	腎臓内科学	講師	江里口 雅裕	ネプリライシンとアンジオテンシン変換酵素による腎臓での塩分ハンドリングと血圧調節	2021 ~ 2023
若手研究	総合医療学	講師	大野 史郎	虚血再灌流性および薬剤性腎傷害と血小板血栓制御系の関連	2021 ~ 2023

Winner Report

研究種目	教室名 (R5.5.1)	職名 (R5.5.1)	氏名	研究課題名	研究期間
若手研究	消化器・総合外科学	博士研究員	西和田 敏	個別化治療を目指した網羅的解析による肺癌再発予測 miRNA パネルの開発	2021 ~ 2023
若手研究	消化器・総合外科学	助教	洲尾 昌伍	難治性小児固形癌に対する新たな免疫ターゲットの探索と治療法の開発	2021 ~ 2023
若手研究	消化器・総合外科学	医員	松尾 泰子	大腸癌肝転移における CD200 を介した治療抵抗性獲得機構の解明と新規治療法の開発	2021 ~ 2023
若手研究	消化器・総合外科学	学内講師	長井 美奈子	肺癌治療抵抗性関連分子の発現制御による新規集学的治療戦略の開発	2021 ~ 2023
若手研究	中央内視鏡部	助教	國重 智裕	ユビキチン修飾系を標的とした新規消化器癌治療法の開発	2021 ~ 2023
若手研究	整形外科	医員	岡村 建祐	ヒト人工多能性幹細胞由来の骨形成細胞集合体を用いた再生医療の検討	2021 ~ 2023
若手研究	総合周産期 母子医療センター MFICU	助教	河原 直紀	卵巣明細胞癌における ARID1A 変異に対する CCNE1 の合成致死メカニズムの解明	2021 ~ 2023
若手研究	口腔外科学	博士研究員	高橋 佑佳	味蕾の細胞増殖と維持、再生メカニズムの解明	2021 ~ 2023
若手研究	成人急性期看護学	准教授	松田 常美	療養病床や介護療養病床で勤務する援助者のスクンテアの認識と対応からの予防策の構築	2021 ~ 2023
若手研究	疫学・予防医学	助教	山上 優紀	COVID-19 感染拡大が身体活動量およびサルコペニア・フレイルに及ぼす影響	2021 ~ 2023
若手研究	微生物感染症学	助教	鈴木 由希	病院排水を利用した薬剤耐性菌監視システムの構築と耐性遺伝子拡散機構の解明	2021 ~ 2023
若手研究	第一生理学	助教	杉村 岳俊	視線保持に関する神経積分器の神経ネットワーク基盤	2022 ~ 2024
若手研究	寄附講座 V-iCliniX 講座	助教 (寄附講座)	中西 真理	疾患関連 HLA 多型性の分子構造解析	2022 ~ 2024
若手研究	脳神経内科学	医員	塩田 智	神経難病におけるリピート配列に起因する細胞骨格とオートファジー異常の解明	2022 ~ 2024
若手研究	脳神経内科学	助教	七浦 仁紀	タンパク質の制御機構からみた ALS/FTD の病態解明	2022 ~ 2024
若手研究	精神医学	博士研究員	高橋 誠人	自閉スペクトラム症における文化的自己観の神経基盤	2022 ~ 2025
若手研究	寄附講座血栓止血分子 病態学講座	助教 (寄附講座)	下西 成人	血栓症を呈した新規凝固第 V 因子異常症における抗凝固機能低下機序の解明	2022 ~ 2024
若手研究	血栓止血先端医学	特任助教	中島 由翔	血友病 A 治療における高機能型第 FVIII 因子製剤の開発	2022 ~ 2024
若手研究	消化器内科学	医員	小川 裕之	Lenvatinib による門脈圧亢進抑制効果の検討	2022 ~ 2025
若手研究	消化器内科学	医員	石田 光志	アルコール性肝発癌の機序と Nr1f2 活性化による多面的発癌抑制作用の検討	2022 ~ 2024
若手研究	循環器内科学	助教	中田 康紀	NADPH オキシゲナーゼ構成因子 p22phox を標的とした新規心不全治療への展開	2022 ~ 2023
若手研究	循環器内科学	医員	野木 一孝	特定健診項目を用いた心不全早期診断アルゴリズムの開発	2022 ~ 2023
若手研究	腎臓内科学	医員	西本 雅俊	近位尿管におけるネプリライシンの存在意義と急性・慢性の腎障害に対する予防効果	2022 ~ 2024
若手研究	臨床研修センター	助教	大西 智子	包括的凝固線溶解解析を基盤とする播種性血管内凝固と COVID-19 の治療戦略の構築	2022 ~ 2024
若手研究	がんゲノム・腫瘍内科学	医員	若佐 陽介	BRAF 変異大腸癌における CD200 発現の意義と CD200 抗体による治療法の開発	2022 ~ 2024
若手研究	分子病理学	博士研究員	西口 由希子	糖化 HMGB1 の消化器癌における役割の検討	2022 ~ 2024
若手研究	中央内視鏡部	博士研究員	尾原 伸作	生体吸収性ステントによる消化管縫合不全の新規治療法開発を目指した基礎的研究	2022 ~ 2024
若手研究	消化器・総合外科学	博士研究員	中川 顕志	胆膵癌における治療抵抗性獲得機序の解明とその克服による新規集学的治療法の開発	2022 ~ 2024
若手研究	麻酔科学	学内講師	田中 暢洋	侵害受容刺激モニターによる手術侵襲度評価の妥当性・バイオマーカーを用いた検討	2022 ~ 2024
若手研究	脳神経外科学	博士研究員	森本 亮之	TIGIT ノックアウトヒト NK 細胞を用いた膠芽腫に対する新規治療法の開発	2022 ~ 2024
若手研究	地域医療学講座	特任助教	倉田 慎平	肩鎖関節脱臼における肩鎖、烏口鎖骨靭帯の生体力学的研究	2022 ~ 2025
若手研究	整形外科	助教	井上 和也	人工肩関節置換術後における有限要素法を用いた上腕骨応力変化の検討	2022 ~ 2024
若手研究	泌尿器科学	助教	森澤 洋介	膀胱での尿再吸収機構と夜尿症の病態解明を目指した基礎研究	2022 ~ 2023
若手研究	泌尿器科学	助教	後藤 大輔	低リノール酸環境マウスと LPA1 受容体ノックアウトマウスの下部尿路機能の変化	2022 ~ 2024
若手研究	産婦人科学	助教	杉本 澄美玲	漿液性卵巣癌における卵管採取癌病変の発癌機序解明	2022 ~ 2024
若手研究	法医学	助教	勇井 克也	敗血症性ショックにおける 2-AG による末梢循環の新規分子機構の解明	2022 ~ 2025
若手研究	分子病理学	博士研究員	後藤 桂	中鎖脂肪酸を用いたがん性サルコペニア治療の臨床応用の検討	2022 ~ 2024
若手研究	整形外科	助教	塚本 真治	中間悪性度骨腫瘍に対する免疫チェックポイント分子発現を基盤とした新規治療戦略	2023 ~ 2025
若手研究	脳神経内科学	助教	川浦 信之	シングルセル解析による眼瞼頭位型ミオパチーの分子病態解明の試み	2023 ~ 2024
若手研究	総合画像診断センター	助教	太地 良佑	イメージング質量分析を用いた LEN 先行 TACE の薬剤分布評価と治療マーカーの探索	2023 ~ 2024
若手研究	小児科学	学内講師	石川 智朗	包括的血液凝固解析による小児特発性ネフローゼ症候群の血液凝固病態の解明	2023 ~ 2025
若手研究	循環器内科学	助教	妹尾 絢子	心臓 MRI を用いた心筋エントロピーの有用性：左室駆出率が保たれた心不全の予後予測	2023 ~ 2025
若手研究	がんゲノム・腫瘍内科学	学内講師	大田 正秀	癌幹細胞における免疫チェックポイント阻害剤耐性機構の解明	2023 ~ 2026
若手研究	呼吸器内科学	医員	藤岡 伸啓	脂肪由来間葉系幹細胞の多分化能を活用した COPD の新規治療戦略	2023 ~ 2025
若手研究	腎臓内科学	医員	孤杉 公啓	CKD-MBD における Osteoclast-associated receptor (OSCAR) の役割の検討	2023 ~ 2025
若手研究	皮膚科学	助教	西村 友紀	HHV-6 持続感染に着目した DIHS の病態解明および自己免疫疾患発症機序の解明	2023 ~ 2025
若手研究	感染症センター	講師	今北 菜津子	病原体を考慮した敗血症性脳症のマウスモデルの確立と病態解明	2023 ~ 2026
若手研究	免疫学	助教	古川 龍太郎	呼吸器ウイルス感染症の発症および重症化における FOXO1 シグナル伝達経路の機能解明	2023 ~ 2025
若手研究	消化器・総合外科学	助教	横谷 倫世	トリプルネガティブ乳癌における CD70 発現の意義の解明と新規免疫療法開発	2023 ~ 2025
若手研究	消化器・総合外科学	助教	中出 裕士	E3 ユビキチンリガーゼを介した胃癌進展機序の包括的解明と新規治療戦略の開発	2023 ~ 2025
若手研究	中央手術部	学内講師	位田 みつる	入院前のオレキシン受容体拮抗薬の投与が入院後の睡眠と術後回復に及ぼす影響	2023 ~ 2026
若手研究	脳神経外科学	助教	木次 将史	頸動脈プラークに対するスタチンはプラークを安定的に安定させるか？ NIRS による分布の変化	2023 ~ 2024
若手研究	整形外科	助教	川崎 佐智子	頸椎性脊髄症の痺れの可視化	2023 ~ 2027
若手研究	整形外科	学内講師	原 良太	関節リウマチに対する滑膜組織を用いた分子標的薬選択の最適化に関する研究	2023 ~ 2025
若手研究	泌尿器科学	助教	堀 俊太	腎移植におけるタクロリムス代謝・吸収と腸内細菌叢の関連解析	2023 ~ 2025
若手研究	産婦人科学	医員	竹田 善紀	Lactobacillus は本当に味方か？胎盤形成における浸潤抑制性 Lactobacillus 属の同定	2023 ~ 2025
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	博士研究員	横田 尚弘	ラットを用いた骨導超音波知覚の解明と耳鳴に対する治療の基礎研究	2023 ~ 2025
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	阪上 雅志	多能性幹細胞から前庭有毛細胞の特異的分化誘導と培養前庭による細胞移植再生の試み	2023 ~ 2025
若手研究	救急医学	助教	浅井 英樹	市民による AED 等の一次救命処置を早期に実施させるための口頭指導法の確立	2023 ~ 2026
若手研究	公衆衛生学	博士研究員	久橋 幸男	在宅医療における多職種協働によるケアの実態把握とアウトカム評価	2023 ~ 2025
若手研究	公衆衛生学	講師	明神 大也	死亡票・死亡届票を用いたレセプトデータベースにおける死因確定ロジックの開発	2023 ~ 2025
若手研究	疫学・予防医学	講師	田井 義彬	住環境温湿度・皮膚温・脈拍変動の連続測定データを用いた高齢者熱中症予防法の開発	2023 ~ 2025
若手研究	糖尿病・内分泌内科学	助教	中島 拓紀	レセプトビッグデータを用いた機能性副腎腫瘍における骨粗鬆症、脆弱骨折の病態解明	2023 ~ 2025
若手研究	分子病理学	博士研究員	宮川 良博	がん性サルコペニアにおける中鎖脂肪酸食とケトン体食の骨格筋保護作用の比較	2023 ~ 2025
若手研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	塩崎 智之	平衡障害の分類によるテラーメーメイド前庭リハビリテーションの開発	2023 ~ 2025
若手研究	分子病理学	助教	森 汐莉	ミトコンドリア DNA 障害が誘導するがん性悪液質の機序解明	2023 ~ 2024
若手研究	中央手術部	学内講師	高谷 恒範	新規発光刺激電極による半視野刺激視覚誘発電位モニタリング装置の開発	2023 ~ 2025
研究活動スタート支援	呼吸器内科学	助教	谷村 和哉	B 細胞機能障害に着目した COPD 増悪の炎症病態の解析	2022 ~ 2023
特別研究員奨励費	血栓止血先端医学	特別研究員 (DC1)	小野寺 悠	血友病 A 治療を目指した血液凝固第 VIII 因子産生共培養細胞シートの開発と応用	2022 ~ 2023

未来への飛躍基金だより

未来への飛躍基金は、本学に勤務する教職員、卒業された諸先輩方、保護者の皆様、そして県民や全国の皆様からお寄せいただいた寄附金によるものです。皆様からのご寄附は、教育、研究及び診療活動への支援、大学及び附属病院の施設整備、大学と社会とのつながりへの支援等、幅広く活用させていただいております。基金へのご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

教育・研究への支援 ～リサーチ・クラークシップ～（2022年度活動報告より）

リサーチ・クラークシップとは、医学科2年生を対象としたプログラムで、早期に国内外の研究機関にて研究に参加することで、研究マインドを育てることを目的としています。未来への飛躍基金では、実習にかかる宿泊費の一部を助成しています。

国立精神・神経医療研究センターに研究実習留学しました

（当時）医学科2年生 五嶋 武志

素晴らしい場所での実習の機会をくださりました、脳神経内科学教室の杉江和馬先生や教職員の皆様に御礼申し上げます。疫学研究第一部での2か月間の研修は、かけがえのない経験となりました。個人的な話で恐縮ですが、家庭の事情でご支援がなければ学外研修に申し込むことができませんでした。このような素晴らしい経験の機会をくださりました、ご支援者の皆様に心から感謝申し上げます。

派遣先では未履修の免疫学や病理学の知識が必要となる場面がありました。しかしながら、2年生の1～3月にリサーチ・クラークシップがあることは、ベストな時期であると感じています。1年次では早すぎますが、早いうちに研究や医療現場のことを知ることは、残りの学生生活をどのように過ごすか考える上で重要な機会となるからです。奈良県立医科大学のリサーチ・クラークシップは、他大学にはない強みでありますとともに学生一人一人が自身と向き合い成長できる場であります。

私が今後気を付けなければならないことは、この経験の記憶が薄れ、研修前の自身に戻ってしまうことです。「鉄は熱いうちに打て」のことわざにありますように、いくつか掲げているやりたいことを春休みのうちに実践しようと考えています。学外リサーチ・クラークシップで得られた経験を活かして、良き医療人となれますよう日々切磋する次第です。また将来、自身のような学生が学外派遣や留学ができるように支援者側に回りたいと思います。重ねてとなりますが、この度は誠にありがとうございました。



NCNP 疾病研究第一部の皆様と（後列左から5番目が本人）

寄附者ご芳名の銘板を更新しました

ご寄附いただいた方々への感謝の気持ちを込めて、顕彰制度を設けています。寄附額が30万円以上（複数回のご寄附をいただいた場合は合計額）の方々のご芳名を刻んだ銘板を附属病院1階に設置しています。附属病院にお越しの際はご覧ください。



寄附者ご芳名の銘板（附属病院1階）

紺綬褒章伝達式を行いました

未来への飛躍基金にご寄附をいただきました大西英之氏（医学科S46卒業）に対し、紺綬褒章が授与されました。4月13日に本学において紺綬褒章伝達式を行い、細井理事長・学長から褒章および章記を伝達するとともに、ご寄附への感謝の気持ちをお伝えしました。

紺綬褒章のご案内

本学は、内閣府賞勲局から紺綬褒章「公益団体」として認定を受けています。基金に500万円以上のご寄附をいただいた方（個人）及び1,000万円以上のご寄附をいただいた団体は、紺綬褒章の授与の対象となります。

授与申請については本学の取扱基準に基づいて行いますので、詳しくは総務広報課までお問合せください。

【奈良県立医科大学 総務広報課】

TEL : 0744-22-3051（内線 2803） E-mail : hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://www.narmed-u.ac.jp/~hiyakukikin/> または「未来への飛躍基金」で検索！



大学院入試日程

令和5年度 秋入学 大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	若干名	令和5年7月10日(月)～7月14日(金)	令和5年7月31日(月)	令和5年9月12日(火)

- 社会人※の入学も可能です。
- 社会人には、長期履修制度を設けています。

令和6年度 大学院医学研究科（博士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	40	第一次募集 令和5年10月10日(火)～10月13日(金)	第一次募集 令和5年11月6日(月)	第一次募集 令和5年12月12日(火)
		第二次募集 令和6年1月9日(火)～1月12日(金)	第二次募集 令和6年1月29日(月)	第二次募集 令和6年3月5日(火)

- 社会人※の入学も可能です。
- 社会人には、長期履修制度を設けています。
- 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
- 令和6年度秋入学の実施については未定です。
- 大学院修学資金貸与制度（要件を満たした場合返還免除）があります。

令和6年度 大学院医学研究科（修士課程）

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医科学	5	第一次募集 令和5年10月10日(火)～10月13日(金)	第一次募集 令和5年11月6日(月)	第一次募集 令和5年12月12日(火)
		第二次募集 令和6年1月9日(火)～1月12日(金)	第二次募集 令和6年1月29日(月)	第二次募集 令和6年3月5日(火)

- 社会人※の入学も可能です。但し、令和6年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
- 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。

令和6年度 大学院看護学研究科（修士課程）

専攻	コース	専門	募集人員
看護学	看護学コース	【領域】 健康科学 基礎看護学 看護実践応用学 がん看護学 高齢者看護学	小児看護学 精神看護学 公衆衛生看護学 在宅看護学 女性健康・助産学
		高度実践看護師教育課程（クリティカルケア看護分野、がん看護分野） 周麻酔期看護師教育課程	
	助産学実践コース	【領域】 女性健康・助産学	5

出願期間	試験日	合格者発表
第一次募集 令和5年7月20日(木)～7月27日(木)	第一次募集 令和5年8月21日(月)	第一次募集 令和5年9月12日(火)
第二次募集 令和5年10月20日(金)～10月25日(水)	第二次募集 令和5年12月1日(金)	第二次募集 令和5年12月12日(火)

- 社会人※の入学も可能です。但し、令和6年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。
 - 社会人には、長期履修制度を設けています。
 - 本学学部からの進学者、奈良県内に住所を有し要件を満たす者については入学料が免除される入学料免除制度があります。
 - 高度実践コース（クリティカルケア看護分野、がん看護分野）及び助産学実践コースについては、修業中は学業に専念できる者としてします。
 - 一次募集の結果によって、二次募集を実施しない場合があります。
- ※社会人とは医療・保健・福祉施設、教育・研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

教育支援課：医学研究科担当 内線 2716 / 看護学研究科担当 内線 2390

公開講座情報

令和5年度前期

奈良県立医科大学 公開講座「くらしと医学」

開催日：令和5年9月2日(土) 13:00～15:00(受付12:30～)
場所：橿原文化会館 大ホール
概要：日頃の研究成果等を県民の皆さんにわかりやすく解説します
講演者：「眼の健康が長寿のヒケツ！」眼科学 教授 緒方 奈保子
「痛み of 新しいメカニズム」解剖学第二 教授 和中 明生
対象：県民
備考：事前申込み不要 参加無料
問合せ先：奈良県立医科大学 総務広報課、
県民健康増進支援センター
TEL：0744-22-3051(内線 2297、2206)

奈良健康フェア2023

「家族みんなで健康ライフ！」

開催日：令和5年9月18日(月・祝)
10:00～18:00
場所：イオンモール橿原1F
サンシャインコート/スターライトコート
概要：様々な体験ブースやステージ企画で、家族みんなが健康になれる情報をお届けします。
対象：県民
備考：事前申込み不要 参加無料
問合せ先：奈良県立医科大学 麻酔科学
TEL 0744-22-3051(内線 3469)

第6回NDBユーザー会

開催日：令和5年9月15日(金) 10:00～16:00
場所：日本科学未来館 未来館ホール・イノベーションホール@お台場
概要：NDB(レセプト情報・特定健診等情報データベース(National Database))の分析方法に関する知識及び技術の開発、健全な普及を図るとともに、NDBの利用環境の向上に関する調査、研究及び提言を行うことを目的としてNDBユーザー会を奈良医大が主幹となって実施している。今回はNDBの健全な利活用を促進し、もって臨床研究や行政施策へ貢献することを目的として集会を実施する。
発起人：奈良県立医科大学公衆衛生学 教授 今村知明、京都大学医学部附属病院医療情報企画部 教授 黒田知宏、東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻 臨床疫学・経済学 教授 康永秀生 他
対象：NDBの分析に関わるユーザー
備考：事前申込必要 参加費(現地参加+オンデマンド4,000円/オンデマンドのみ3,000円)
主催：奈良県立医科大学 公衆衛生学
問合せ先：NDBユーザー会 <http://square.umin.ac.jp/ndb/>

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。基金創設以来、令和5年6月末で累計4,113件のご寄附をいただいております。今号では令和5年4月～令和5年7月にご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。

【個人】

◆30万円以上100万円未満

内田 和宏 様 大林 賢史 様 高倉 義典 様
竹嶋 俊一 様 田中 康平 様 玉岡 広美 様
寺田 秀興 様 内藤 彰彦 様 中本 帆波 様
廣橋 里奈 様 渡邊 愛子 様 渡邊 巖 様
掲載を希望されない寄附者様 1名

◆10万円未満

池端 雅美 様 田中 直樹 様 中村 秋野 様
掲載を希望されない寄附者様 8名

◆10万円以上30万円未満

井上 進敬 様 茨木 透 様 酒井 宏水 様
坂本 一喜 様 新田 望 様 久永 學 様
松本 雅充 様 宮尾 孝治 様
掲載を希望されない寄附者様 3名

◆金額の公表を希望されない寄附者様

延生 恭子 様 阪本 晃 様 近山 達 様
原田 貴史 様 福住 明夫 様

Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2023年 5月1日	日本診療放射線技師会誌	教育開発センター 特任講師 岡本左和子	医師の働き方改革に関する研究班の視察による米国の状況 ③米国において医師からタスクシフトを担う医療職能：フィジシャン・アシスタント (Physician Assistant: PA) の実際
5月8日	NHK 奈良 ならナビ	感染症センター 教授 笠原 敬 感染管理室 副室長 徳谷 純子	新型コロナ「5類」に移行 奈良県では何がどう変わる
5月9日	FM COCORO CIAO765 “朝日インテック Dream Together”	放射線診断・IVR学 教授 田中 利洋	身体に優しいカテーテル治療のご紹介 1. 肝細胞癌 2. 子宮筋腫 3. 関節痛
5月14日	日本経済新聞	公衆衛生学 教授 今村 知明	メタバース圏現る 「無縁仏」 急増時代の墓参り 未継承墓数の推計研究が取り上げられました
5月20日	日医ニュース	公衆衛生学 教授 今村 知明	第31回日本医学会総会会頭特別企画8「2040年を見据えた地域医療構想—我が国の医療共有体制の課題と未来への提言」で講演
5月20日	ZIP-FM 朝日インテック Dream Together	放射線診断・IVR学 教授 田中 利洋	身体に優しいカテーテル治療のご紹介 1. 肝細胞癌 2. 子宮筋腫 3. 関節痛
5月26日	読売新聞	理事長・学長 細井 裕司	「軟骨伝導」集音器発売
5月26日	じほう メディファックス	公衆衛生学 教授 今村 知明	25年の病床数は「119.0万」、 必要数を下回る見通し 厚労省 WG
5月29日	じほう メディファックス	公衆衛生学 教授 今村 知明	「大学病院改革」への議論始動、 医学研究の強化を 文科省検討会
5月29・30日 6月3日	NHK World Japan Medical Frontiers	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 北原 紘	Through Examinations for Causes of Dizziness (めまいの原因を探る)
5月31日	朝日新聞	理事長・学長 細井 裕司	「軟骨伝導」のイヤホン 奈良中央信金、来客用配備へ
6月4日	J-WAVE J-WAVE SELECTION 朝日インテック Dream Together	放射線診断・IVR学 教授 田中 利洋	身体に優しいカテーテル治療のご紹介 1. 肝細胞癌 2. 子宮筋腫 3. 関節痛
6月8日	岩手日日	皮膚科学 教授 浅田 秀夫	子どもの重症蚊刺アレルギーについて解説
6月9日	フジテレビ Live News α	理事長・学長 細井 裕司	新技術 軟骨伝導型の補助イヤホン 自治体が初の導入
6月13日	読売新聞	理事長・学長 細井 裕司	軟骨伝導イヤホン配備 奈良中央信金 高齢者への接客円滑に
6月18日	奈良新聞	消化器内科学 教授 吉治 仁志 助教 岩井 聡始	「生活習慣の改善重要」 肝がん撲滅市民公開講座 県医大教授ら講演
6月30日	読売新聞	リハビリテーション医学 教授 城戸 顕	手指リハビリ 手袋試して 県立医科大など開発 装着 負担少なく
7月1・8日	NHK BS1 Medical Frontiers	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 教授 北原 紘	Through Examinations for Causes of Dizziness (めまいの原因を探る)
7月3日	十勝毎日新聞	皮膚科学 教授 浅田 秀夫	子どもの重症蚊刺アレルギーについて解説
7月5日	苫小牧民報	皮膚科学 教授 浅田 秀夫	子どもの重症蚊刺アレルギーについて解説
7月6日	奈良新聞	理事長・学長 細井 裕司	軟骨伝導聴覚補助イヤホン 奈良中信 全店舗窓口に導入 金融情報、正しく伝達
7月16日	朝日新聞	理事長・学長 細井 裕司	軟骨伝導「認知症の予防に」 イヤホン装着の有無 発症率調査
7月23日	朝日新聞デジタル	医学部長 嶋 緑倫	「血友病」の治療、新たな薬が続々と 患者・家族のQOL改善に期待
7月25日	朝日新聞 患者を生きる	医学部長 嶋 緑倫	血友病治療薬ヘムライブラの共同研究について コメント
7月26日	NHK 総合 プロフェッショナル 仕事の流儀	先天性心疾患 センター センター長 山岸 正明	託された道を、まっすぐに ～小児心臓外科医 山岸正明～

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

編集後記

皆様のご協力により第85号学報を発行することができました。ご協力・ご支援いただいたみなさまに深く感謝いたします。学報では、教職員の皆様からの記事を随時募集しています。記事掲載を希望される方は総務広報課までご連絡ください。

